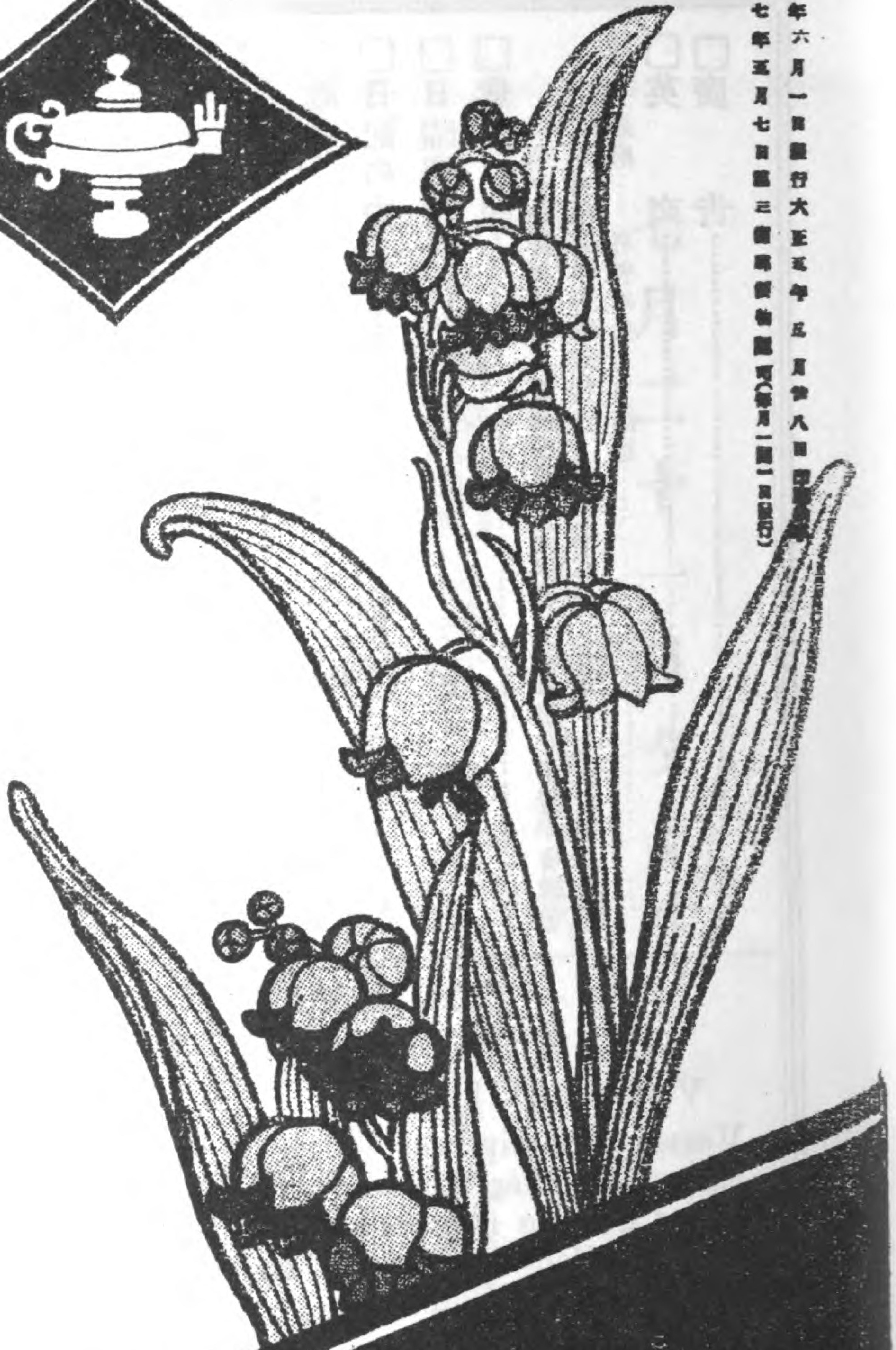
大正五年六月一日發行　大正五年五月廿八日印刷納本
明治廿七年五月七日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）

女子青年界



第十三巻
第六號

要目

女子青年界第十三巻第六號

目次

YOUN WOMEN OF JAPAN
(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XIII　　June, 1916　　Number 6

七月二十一日夕より
同　二十七日夕まで　七日間

横濱市山手町一七八フエリス女學校に於て

（出席は有志の婦人は誰方でも差支ありません續々御申込ありたし）

第十一回 女子夏期修養會

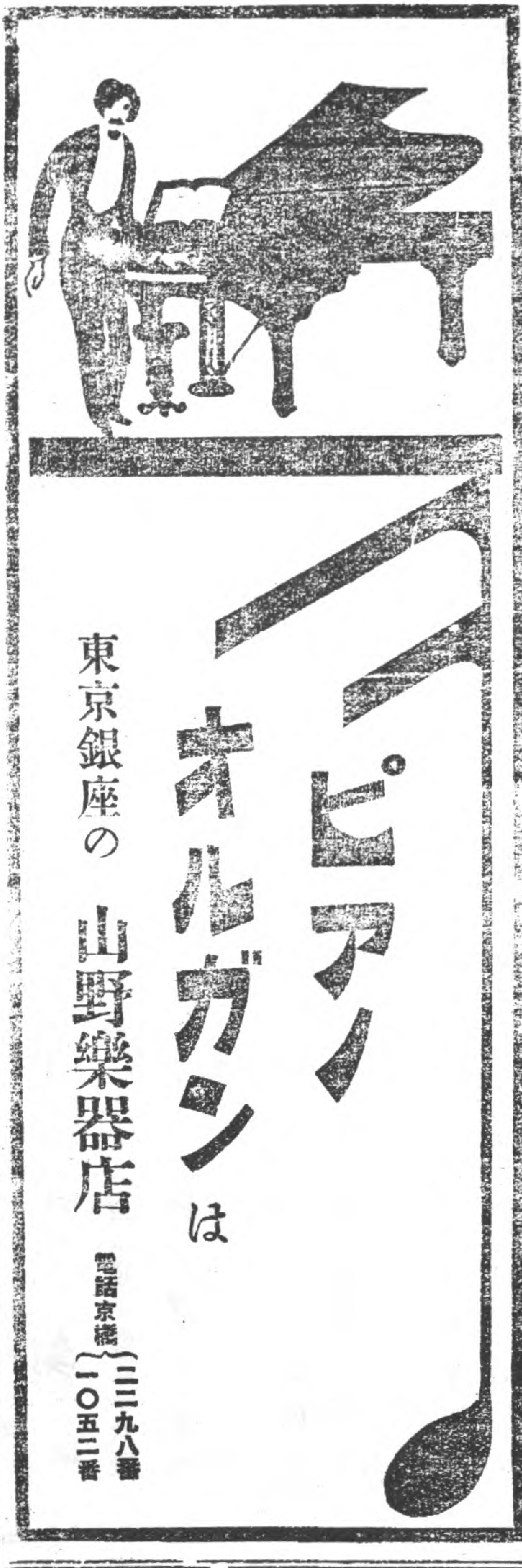
出席申込は可成至急當本部へ

詳細は申越次第返信す

東京市神田區北神保町十四番地

日本基督敎女子青年會本部

電話本局五九八番
振替口座東京一二三七二三番



隣の廣告を見よ

女子青年界 第十三巻第六號 (大正五年六月一日發行)

我が友

今より後われ爾曹を僕と稱はず、蓋は僕は其の主のなすことを知らざればなり。われ爾曹を友とよべり、我爾曹に我が父より聞きし所のことを盡く告げしによる。
約翰傳十五ノ十五

我なさんとすることを隱くすべけんや。
創世紀十八ノ十七

爾曹には天國の奧義を知ることを予へ給ふ。
馬太傳十三ノ十一

我爾の名を彼儕に示せり復これを示さん。
約翰傳十七ノ二十六

神は其の靈をもて之を我儕にあらはせり、靈はすべての事を究知り、又神の深事をも究知るなり。
哥林多前書二ノ十

我儕の語る所は秘密たりし神の奧義の智慧なり。
哥林多前書二ノ七

爾に選ばれ爾に近づけられて大庭に住ふものは福なり、我儕は爾の家、爾の殿の淸きところのめぐみに飽くことを得ん。
詩篇六十五ノ四

エホバの親愛はエホバを怖るゝものと共にあり、エホバは其の契約を彼に示し給はん。
詩篇二十五ノ十四

そは我なんぢが我に賜ひし言葉を彼儕に予へたればなり、彼これを受け又我なんぢより出でしことを誠に知り、且爾の我を遣はしゝことを信じたり。
約翰傳十七ノ八

すべて我が爾曹に命ずる所のことを行はば即ち我が友なり。
約翰傳十五ノ十四

會說

大人の教育

基督教文明を通して我々の受けた恩惠の中の最も大いなるものの一は教育であらうと思ひます。我々の品性を養ひ智德を進めて、人の人たる位地を墜さずに益向上し得るのは、全く教育の賜でありまして今や幼稚園教育より大學教育にまで、すべての教育機關の備はつて居ることは、實に何物をも比較することの出來ない仕合なことであると信じます。しかしながら斯る教育機關は概して青年子弟のために設けられたものであつて、所謂大人の教育機關といふものに就てはかゝる行屆いた設備はないのであります。故に今日の一般の傾向から見ると、教育は青年子弟が他日社會に立つて生活するための修業をすることのやうに見なされて、それ以外には希望も意義もなく教育を受け又受けさせて居るのが多いやうに思はれるのであります。教育がさういふ意味になつて來た結果は、子供には成るべく善良優等の教育を施したいと希ふても、自分は何等の修養も勉强もせないで頗る時代後れの現狀に滿足し、それを以て當然の如くに思惟せる親は決して少なくないやうに見えるのであります。しかし教育は決して青年兒童のためばかりのことではありません。今日の有樣から考へて見れば寧ろ青年兒童の教育の爲から言つても其の父母たり兄姉たるものが先づ自ら修業して掛らねばならないことを深く感ずることであります。殊

に現今の日本婦人社會の狀態を顧みて、一層其の然ることを感ずるのであります。

さらばとて所謂大人の爲めに學校を設備せよといふのではありません、又大人が再び學生になつて某學校に入學して、何々の學科を修業するの必要があるといふのでもありません。さういふ事は到底實際に行ひ得べき事とも思はれません。けれども我々の修養は唯だ學校に在る時代ばかりのことではありません。又學校に入學せなければ出來ないことでもありません。しかも我々の修業は兒童の時代でも老成の時代でも同樣に成さねばならないことであつて、先づ我々の修業は生涯不休のことといつてよろしいのでありますから、我々の心懸け次第で如何樣にも出來るのであります。米國邊では近頃は通信教授が餘程整つたものが出來て、婦人などは家に在つても大抵此の方法で修業が出來るといふ事であります。若し其の心懸けだにあらば、日本に於ても出版物なり教會なり其外諸集會に出席してなりとも、幾つもの修業の場合に接することが出來ると思ひます。眞に其の精神があれば新聞に掲げてある一小事項からも猶ほ自分を教育することは出來るのであります。

男子といはず、女子といはず、今日の日本人は一定の學校を出でた後は既に修業を終つたものの如くに考へて、更らに自分を教育するに心懸けないのが通弊であります。油を注がなければ火の勢は漸次に衰へます。これと同じやうに常に教育して智識なり德操なりを進める油を注がなければ、終に其の人は退歩するの外はありません。私共のうちには學校時代に餘程優秀な地位を占めて將來に囑望されたものも、學校を出てからは更に進歩も發展もせないものがあるのは、皆此の理由からであります。又多くの婦人は高等女學校で中途半の勉强をして直に嫁に行つてお婆さんになる時まで幾十年間家庭に引込んで家の事に齷齪して暮すものでなければ、此の世の快樂を追ふて極めて不眞面目な不秩序な生活をするものもあるやうに見えますが、そんなことでは進歩も

向上もある筈はありません。

此頃私共の目につく子弟の不道徳の一は長上に對する尊敬の念の乏しくなつて來たことであると思ひます。世間では師弟の情誼を養はないとか德育が徹底しないとか、種々敎育上の批難があるやうでありますが、私の考では先づ其の父母なり敎師なりが子女から尊敬せられる程の識見も學問も道德も維持して居らないことに因由するではないかと思ひます。例へば父が何等の修養も品位もないもので、朝夕子女の見る所で只自墮落な生活を過して居て、如何に子女に理屈を列べた所で、子弟がこれに服從せざるのみか却て輕蔑する氣分が浮んで來るのは蓋し無理からぬ事情ではありますまいか。高等女學校位を修業して女一通りの修養が出來たと得々として嫁入つて母となつた處で、何の話をしても娘の方が一歩進んだ見識があり操行があり智識を得て居るやうな場合には、どうも母に敬意を拂ふ心持になれない場合になるのも亦不得止次第ではありますまいか。私の斯くいふは父母に敬意を有たない子弟を辯護せんとするのではありませんが、父母たるものが不斷自らの敎育を怠らずして今一段の修業を積むで、子女からも重んぜられるだけの識量と性格を有つことに心付いてもらひたいと思ふからであります近頃の學校騷動などの原因もいくらも他に理由もあらうが之と同じ筋道が必ず一つはあることを疑ふことが出來ません。

度々聞くことでありますが、世間には自分はもう此の年になつて年來の習慣やなどを改むることはむづかしいから自分は致方ないとしても、悴や娘は是非敎會に入れて品行を正しく人格をよくしたいといふ人がある。隨分虫のよい話であると思ひます。悴や娘の修養のために必要を感ずること斯の如くならば何故に自ら先づ進んで、自己の惡習陋癖を改めて敎會に來らないのでありませうか。其處は既に根底からして間違つて居ります。

このやうな有りふれた事柄から例を擧げるならば

幾らも擧げることが出來ると思ひますが、要するに現今に於て忽にすべからざることは大人が自らで自らを教育することであります。學校を出た人乃至一家の主人たり主婦たる人々に此の點に就ての自覺がなければ、又格別に今の青年男女が豫め此の點に留意して、將來何れの方面に地位を決するとしても、決して學校の教育に滿足せず、如何なる時にも如何なる場合にも、自ら教育し自ら修業して、益進んで止まざるの覺悟を今日よりして既に有する所がなければ、將來國家社會の進歩も改善も自然期することが出來なくなる次第であると信じます。

惰者の道には棘あり。
直者の道は平坦なり。

基督教女子青年會の活動と其機關（六）

傳道委員の事

ミス、マクドナルド

以賽亞書第六十一章一節以下三節に錄されたることは、或有名なる人の言ひし如く、實に基督教のプログラムなり、即ち左の如し。

主エホバの靈われに臨めり、こはエホバわれに膏をそゝぎて貧しきものに福音をのべ傳ふることをゆだね、我をつかはして心の傷める者をいやし、俘囚にゆるしを告げ、縛められたるものに開放を告げ、エホバのめぐみの年とわれらの神の刑罰の日とを告げしめ、又すべて哀むものをなぐさめ、灰にかへ冠をたまひてシオンの中の哀むものに與へ悲哀にかへて歡喜のあぶらを與へ、うれひの心にかへて讃美の衣をあたへしめ給ふ也、かれらは義の樹、エホバの植ゑ給ふもの、其の榮光をあらはす者ととなへられん。

されば基督教女子青年會傳道委員が其の働に於て盡すべきことは何ぞと問はゞ、勿論此の聖言に示せる如く、このプログラムにより基督の方法に從ひ又

基督の犠牲的精神に則り、日常接觸する人々を神に導くの外あらず、しかし其の基督の方法に從ひ基督の精神に則るとは如何なることかと問はゞ、これ則ち心靈に於ても肉體に於ても自己の缺點―罪惡不義を認めて爲めに煩悶と窮苦と艱難に陷れる人々のために、其の罪の結果より免かれしむる道を開くために盡すに在り。

學生としては自己の學校に於て日々相交る同窓の友人を導くは最も近き責任なりといへども、今日の社會に在りては自己の家庭、自己の學校、自己の朋友よりも更らに廣き範圍に着眼せざるべからず。現今の社會に於けるあらゆる罪惡に陷れるものを救ふために盡すものは誰か、又これを慰むるものは誰か、又これに向つて基督の愛を敎へ其の救に入らしむるやう導くものは誰か、これ等のことを見る時は決して狹き範圍の中に蹐跼しあるべきにあらず。殊に我が日本の國情は上下階級の懸隔ありて相通ずるの道なかりしといへども今後神の福音の奧義を曉るもの漸く增加するに從て、單に自己の快樂自己の周圍の事のみならず、すべての階級を通じて同情救護の道開かるべきは勿論なり、例へば工場の働に從事せるもの、貧民階級の人々等は如何にして日常の生活を支へつゝありや衣食の料を缺けるなきか、過多の勞働に依て疲勞せざるか、精神方面には基督の福音即ち神の子として親子の關係を神に繋ぎ、各種の誘惑にも勝ち得る十分の能力を受けつゝありやの如き問題に就て思考し且興味を有するものは必ず今日の學生中より起らざるべからず、かくして始めて前に揭げたる基督敎のプログラムを完ふせんとの志も起るべく、而して一層傳道的精神の勃興をも期し得べし。

學生に取つては文學のこと、美術のこと、科學のこと等は頗る興味あることにして、誰も心力を盡して硏究することなれども、一般に男女學生を問はず、每日新聞紙上に現はるゝ社會の出來事―實際の問題に就て、例へば貧民の生活狀態、犯罪の原因、又此頃よく聞く所の小學生の殺傷事件、肺結核問題等に

就て、充分心力を盡して調査研究せんとする學生は幾人ありや、又かゝる問題と交渉を持する學生或はかゝる問題は自分と沒交渉にあらずと考ふる學生は幾人ありや、殆ど無關係の狀態に在るを常とするにあらずや。此頃來朝されしブラオン博士の談話によれば、博士の參觀されし基督教主義の某女學校に於て其の校の女學生は社會問題に對して興味を有するやと質問されしに、其の校長は決して興味なしと答へしとぞ。然れども今日の女學生は即ち將來の社會の指導者にあらずや、過去の女學生は既に社會問題に興味を有せざるものなりしによりて現在の如き狀態に陷れるも尙救濟する能はざる也。若し現在の女學生が亦過去の女學生と同じく社會の問題に對して何等の思慮も興味も有つことあらざれば、將來に於ても亦少しも社會の改善と發達を期することは不可能事に屬すべし。

　而して若し日々の新聞紙上に現はるゝ各種の事件に對して、何故にかゝる事實は發生し居るや、何故にかゝる問題は起り來りしやとの考を起すことあらば即ち未だ其の問題又は事件に對して深く研究するの時間も智識もこれあらずとするも、既に社會の問題に對して思慮する第一步を踏みたるなり。近く其の例を引けば彼の大阪飛田の問題の如き特別に婦人に關する問題としては婦人として個々に考のあるべき筈の事柄なり。否な無かるべからざる事柄なり。これ其の一例に過ぎざれども、我々は女子青年會員として我々の集會に於て斯る時事問題を會員に知らせ又これを研究する爲に導くならば、各自の爲に有益なるのみならず、將來の社會救濟に於ても非常に有益なるべきを信ず。

　傳道委員の責務は、先づ斯る問題を知り、之を一般の會員に知らしむべきや如何を考へ、後これを會員に知らしむる集會を開らくことを實行すべし。即ち一はよく調べ、二はよく考へ、三はよく行ふ、此の三つが傳道委員の大切なる責務なり。

實行することは今云ひし如く、先づこれを會員に

知らしむる集會等を開くにあれども、之を會員に知らしめ之を考究すると共に青年會として其の働を事實の上に現はさゞるべからざる場合多かるべし、而して現に某々の女子青年會支部が工場に働く工女の爲に貧民社會の子供のために、クリスマス或は感謝日等に食物等を贈るが如き働をなせるものあるは常に聞く所にして是其の考究せる社會の問題に對する働の實現に外ならず、事實上の働として喜ぶべきことなり。然れども、唯手近き働を擇んで何にても可なりとして働くは猶ほ不充分を免かれず。願くは一般の社會の現象に着目し常識と智識を以て之を判斷し研究し而して其の取るべき方針又は方法を考へざるべからず。實に今日の學生は明日の指導者なり。將來の準備の爲めにも今日に於て深く研究し深く考へ、十分に實行の道を圖るは當然のことなり。

女權擴張問題の如き頗る大切にして當面の問題たるに相違なく、頗る盛に論議せらる所なりといへども、更に大切なる解決を要する問題は女子の責任と義務は如何に大いになりつゝあるかにして、如何にしてこれを完うし得べきか、これこそ眞に女子に取つて當面の活問題なり。この問題だに完全に解決されんには權利の擴張の如きは自然に解決し得らるべし。

而して女子の最も大なる義務は社會を清むるに在り。然るに若し社會の缺陥や汚點を少しも知らず、少しも研究せざらんには、到底女子の義務を果す道も明ならず、其の道明ならざれば終に女子としての存在の價値も認られず又存在の意義も失はるゝに至らん。故に女子青年會は基督の教と其の精神に從ひ此の汚れたる社會を清くし基督の宿り給ふ所とし神の政治の行はるゝ所とするために腦力も意志も精神もすべてを盡して働くの道を求めざるべからず。これ傳道委員の寸時も忘るべからざる大切なる要點なりとす。

勿論此の事を成遂げんには根本的に一の大切なる條件あり。即ち社會を清めんには先づ自己の心を清

めざるべからざることなり。約翰傳十七條十九節に「我彼等のために自己を潔む是れ眞理によりて彼等の聖められん爲めなり」とあるが如し。これ更に喋々を要せざる所なり。

以上記述せし所によりて傳道委員に於て二の働あるを知るべし。即ち日常接觸する人々を個人的に導いて基督の淸き御座に至らしむることは其の一なれども、尙ほ一は團體として社會の下層に沈淪せる人々のためにも能ふ限りの研究を遂げて同情する適當なる働を取るの道を開くやうに盡力することなり。此の兩方の働を完ふするに於て始めて傳道委員の爲すべき務を完したりといふべし。決して單に理論的にあずらして活ける現社會の活問題を實際的に解決するに努力するの必要を確信するなり。（此項未完）

神を畏るゝは智慧の本たり。

會告

本誌の定價改正

本誌「女子青年界」は會員及購讀者各位の高庇により漸次發展の域に進みつゝあるは同人一同の感謝に堪へざる所に御座候、偖昨年來の紙價其他の騰貴は到底從來の定價にては持續し能はざる事情に立至り候結果中央委員會の決議により定價引上げを七月より實行することに相成候即ち

一部金八錢

一ケ年前金八拾錢（郵稅共）

と致候、平生の御眷顧に對し多少共定價を引上ぐるは不本意千萬に候へ共不得止次第に付右樣御承引下され度候但し既に前金御拂込濟の分及今六月中に御拂込濟に相成候分に對しては從前の儘にて計算可致候來る七月以後御拂込の分は改正定價により御送金御願申上候　敬白

大正五年六月

東京市神田區北神保町十四番地
日本基督教女子青年會
振替口座東京貳參七貳參番

婦人の自發と宗教

島田三郎

本篇は五月二十一日東京基督教女子青年會に於ける衆議院議長島田三郎氏講演の大要を摘録したるもの也

名前から伺つても此の青年會は基督教主義の下に立てられた青年會で男子青年會と並び立ち男女を平等の地位に置く事を示して居つて婦人に取り特に日本に於ける青年女子に對し幸なことゝ存じます。人を一般宗教的見地から考へれば男も女も對等であるが、事實はさう認められて居ないことは大に御同情申上げる次第であります。近來基督教が公に認められて來ましたが、精神上纔か少數が早く幸を得たのみで、未だ一般には行き渡つて居らない、故に諸姉の如く惠まれた方々は一般の婦人を視て同情すべきであります。英國の婦人は政治的に運動をして居るが、日本の婦人は未だ暗黑で社會上の位地も低く、男子からは婦人の地位を認められず、更に婦人自身さへも自覺して居りません。男子すら政治上の地位を得る爲激しき時には血を流し隨分悲慘な歴史もありました。米國の獨立の如き、佛國の革命の如きは人の血を流してやつた事であつて世界に影響を及ぼし、日本に於ても間接に感化を及ぼされた事は疑ひないのであります。今より四十九年前の日本の改革は米佛より感化を受けました。殊に米國獨立は偕かに雄大な偉業を日本になさしめたのであります。政治上、國際上、文學上、教育上等多方面より種々の思想を注入され、ワシントン、リンコルンの崇拜者が青年の間に起り、間接に内部に醱酵した變化が表に現はれて維新の改革となつたのであります。米國から種々の思想が入り或人は日本の國體に危險であ

るといつたが今では危險だといつた人が教育事業に力を盡し殊に婦人教育に注意を拂つて居ます。元來日本には學校等といふ物はなく武士の子のみが學問をなし、婦人は纔か中古に文學のみを學び組織立つた學校の如きものは寧ろ婦人を拒絕して居ました。然るに計ずも米國より宣教師兼教育者が渡來し教育事業の上に覺醒を與へました。彼のフルベッキといふ和蘭に生れ米國に渡り日本にて死した米國宣教師が初めて傳道會社から遣されて、日本に來られては當時の主な政治家に書物を教へた緣故から教育制度改革の顧問となりまして、日本の教育制度の始めの組織即ち今の大學となるべき學校で所謂名はさうでないが事實教頭として宣教的に教育を日本へ入れる媒となつたので御座います。それにつれて物理、化學、宗教の諸教師は彼の友人を聘することになりました。斯く今日の日本の制度を建てたのは半宣教師にして半教育家でありました。其感化は多く殊に婦人には更に多い。今の北海道は當時蝦夷といつて實に荒漠な地であつたので、北海道を開拓することが、日本の急務でありました。それで新たに社會を立てるには教育が必要である。それには男子を教育すると共に女子をも教育すべしといふ事になり、一層米國思想を注入するやうになりましたが、其の理由で故黑田伯が連れて行かれた最初の婦人留學生の內、大山公爵夫人、津田梅子女史はごく若い二人であつて、現に津田先生の如きは日本の婦人教育家として大に立働かれて居ります。教育も專門によつて種々に分れ、醫學は獨逸の人に委托し、海軍は英國人に、法律はナポレオン制をよしとして佛國人によることでありましたけれども、普通教育特に婦人教育は米國の感化多く、引續き米國制度を注入して居る事は極めて記憶すべき事であります。神は人類を兄弟姉妹とし男子も女子も平等であるといふ思想を根底とした米國の進步した思想を日本に入れたのであります。それが日本の思想に變化を起し多くの人の耳目を引くに至りました。要するに婦人の教育は

宗教的教育的二系統を有して居て、殊に政府の直接行つて居る以外に民間に於ける婦人の働きは多く米國の思想が流れ、又宗教の力に待つたので、其等が學校内のみならず、社會の制度に著しき變化を齎らしたといふのは婦人の爲に悦ぶべき歷史を有して居るのであります。

日本に於ては男女の階段が大に區別せられ、纔か少數を除いては婦人の人格はまだ認められて居らぬ故に、先に幸を得た人は他へ分配し不幸なる人々に對し慈善を持ち間接直接に有らゆる手段を盡すは善良な事と思ひます。是に於て學問的にあらず、或る階段の教を受け互に助合ひ互に研磨し合つて、更に高き見界に入るべきであります。此所に出席せられた諸姉は散じては各所の學校にて教育を受けられるのでありませうが、此青年會に於て、更に廣き意義に於て、品性を磨き人の人たる道に向つて練磨せんとする或種の教育を受けて居られるのであります。婦人を過去、現在、將來と分けて見ると過去は暗黑な時代であつた現在支那や印度に比すれば或點は優る所あるが到底滿足は出來ません。益ゝ雄大な人格を養成し門を開き婦人が率先せねばならぬことと思ひます。それには男子も女子に同情を持つべきであるが、要するに女子の自發の精神が肝要であります草木の生長を促すには水分及日光であるが草木自身に力なくば生長は出來ぬと同じことであります。婦人に於ても自身に振ふ精神を鼓舞しなければならないが、これには何うしても宗教の力に待たねば出來ないことであると存じます。假令高等の教育を受け知識を以て議論しても、その言葉と行とは一致しない事があるが、それを一致さするのは實に宗教の力であります。

家を經營するに男女同心協力す。家が社會の根本で家庭を組織的に善くすれば社會をもよくする事より男女は平等であるのは當然の理由であるが、未だ現社會には受入れられて居ない。婦人に教育を施せば男子に抵抗し反對すると思ふ者があります。然し

婦人を無教育にするをよしとすれば、それは男子も亦自己の無教育な低い事を表はすものであります。然し世は分業なれば男子と女子の働も違ふが思想の高潔、濃厚は結構と思ふ、それには學問によるにあらず、財寶によるにあらず、全く自覺によるので其本は神より與へられた力を圓滿にするので、宗教を除いては斯くの如き自覺を得られないと思ひます農業教育の事が明治四年の頃に議せられ五年に組織せられた。其初めに米國のクラークといふ先生を其の教師として招いて、眞に國を思ひ人を思ふ善人を作つてもらいたいと賴まれた。故に先づ聖書の講義を初めやうとした時、公立學校に於て宗教の書を說く事は出來ないとの爭が起つた。クラーク先生は人を作れといふに聖書を除いては己を欺く事になるから其樣な虛をするなら、辭して歸國するといはれたので遂に先生の自宅にてならばよいといふ事になりました。其學校の中からは新渡戸博士、內村鑑三君伊藤一隆君のやうな人が出られた。內村氏も新渡戸氏も自ら鋤を以て耕す事はしないが、もつと廣き意味の日本開拓者であります。救世軍の働も特殊で社會も認めるのは征服の一歩を進めた、民俗を愛し愛を以て凡ての事の根底とすれば社會の反對に打勝つので善もし敗るゝなら如何なる事も衰へつゝあり信仰も盡きるのである。我々は早く理想に到着したいと思ふ然し反對力は中々强いから漸次にやることが宜しいと思ひます。キリストは四面楚歌の聲で種々な辛苦を舐られました。又キリスト信者も其例に倣ふ事が澤山あるか、キリスト信者といへば行の修まつた人だと思はれるのは一歩進んだことに見られて居る譯になります故に、男女相助け互に尊重し隔なく行く時には力が二倍となり三倍となる次第であります。最近大阪に起つた問題は婦人にとり可歎しい事實で日本婦人にとりて大侮辱であります。然し世間あまり驚かぬ樣子である事は男子も我儘であるが婦人も亦低い事が分ります。しかし一方に慨歎すると共に一方に希望をもつ事が出來るのであります。

明治四十一年にも此例が表はれたが、當時の新聞紙などは少しもそれにつき掲載しなかつたが、明治四十五年にも此問題が起つて其の時には大阪新聞に同感同情を表したのがあつた。今度即ち今年は明治から追へば四十九年になるが、此の十年未滿の內に日本の思想男女の感念が一變し、今回は殆んど大阪全市を擧げて興味を持ち、大阪の教會、矯風會は大に運動して居つて、活動者なるものは男女權勢を共にして居る事が分ります。キリスト信者は惡と見れば他の人が憤らぬ所に氣を付け憤るが、其望は空しくない。婦人の位地の心念固く男子の我儘も變つて來ます。これがもつと盛んになれば益々進步も早いのであります。元より進みつゝあると思ふと努力も增し、婦人の自覺も明白となるとは確かであると思ひます今日惱み辱を受けて居る同情すべき婦人が澤山ある場合、淸き希望の生活を遂ぐべき婦人あるは幸であるが、それを悅ぶと共にそれ丈多くの恩に浴して居ない人を吾人の品性努力により改善し指導すべきであります。婦人の救濟事業は種々ある中に禁酒運動は婦人の力を表はす一例である。故に己れの得たことを人に施し、己れの悅を以て人を悅ばす宗教の觀念、他を救ふの心念は學術藝術にては出來ぬ學術により發明された火藥は人のなし得ぬ勢力を有するが、又多くの人を殺す、藥は用法により益にもなり害にもなる。人の思想も用ひ方如何により善惡になるので、知識は思想の上に何等の好果もないが單に宗教は婦人に自の力を與へて良道に導く事が出來るのであります。

なんぢ靈を出し給へば
百物みな造らる、なん
ぢ地の面を新にし。

活動の準備

山室軍平

凡そ人の爲めに働くには先づ己れを敎養する事を怠つてはならない、自ら敎養する事と、人を祝福する事は一つである、內に滿つるものがあるから外に及ぼす事が出來るのである、故に內に省み內に澤山恩寵を蓄へねばならぬ、そこで私は今使徒行傳の昔に鑑みて、聊さか今時の基督信者が如何に神に用ひられ又如何に神に仕へてよいかを考へて見たい。若し舊約書は神を顯はし、四福音書はキリストを紹介するものとすれば使徒行傳は聖靈の働きを語るものである、言ひ換へれば信者が如何に神に用ひられて人の爲めに盡くすべきかを示す見本である。然るに其使徒行傳の紀事は未完の儘に終つて居る、ペテロ、ポーロの終も末ははつきりして居らない、或人がそれは其以來代々の聖徒が世の終りまで後を書き續ける爲であると云つたのは面白いことである。

ブース大將は或年の初に、眞のクリスチヤンは活きた聖書にならねばならぬ事を說き、終に「汝自ら一個の使徒となりて使徒行傳になほ一章を追加せよ」と云はれた、即ち第二十九章以下の記事を作れといふ意味である。もつと具體的に言へば、私共は信仰と聖靈に滿されたるステパノの如き人物とならねばならぬ、又はペテロ其他の使徒の如くイエスの名の爲に辱を受るに足る者とせられしことを喜ぶべきである、或はピリポの如く車中の人々に傳道すべきである、いつぞや救世軍の者が電車の中に傳道した處が翌日の新聞に惡口が書いてあつた、併し電車に乘り損ねて間違つた方向に行く人に注意する事が親切なら、人間一生の旅路に間違つた道を行く人々

に忠告を與へるのは、それよりも更に善いことではないか、或はプリスキラとアクラと夫婦の者の如く所謂平信徒傳道に熱心し、偶には自分共より、ずつと物識のアポロを感化する如きこともあつて然るべきことと思ふ。中には學校に居る間は聖書を讀み讃美歌を歌ひなどして熱心に信仰して居るやうでも學校を出ると冷へてしまふ人々か少なくない。併し使徒時代の弟子達は信仰の爲に他郷に逐はれながら「遍ねく往きて福音を傳へ」たとある。其如く私共は使徒行傳の時代の人々と同じ精神を今の日本に實現せねばならぬ。「御先祖に打死させて高枕」又「侍は腹さへ切るに擁爐かな」といふ事がある、私共は古人に耻ぢぬ奉事を神に献げねばならぬ。又「初鰹伊勢屋の前を通り過ぎ。」「二代目に伊勢屋の前に初鰹。」「賣家を唐様に書く三代目。」といふ事がある、基督の宗教と雖も油斷すると當初の精神を失ふて腐敗沈滯することがある故、どうか氣を付て古への使徒に耻ぢぬ實行を勵みたいものである。

扨使徒行傳といへば直ぐに其の第二章ペンテコステ以後の事をのみ考へる人が多い。併し乍ら第二章以下の出來事は、其第一章に胚胎して居るのである私共は第一章を抜きにして、第二章以下を理解する事は出來ない、然らば使徒行傳第一章が私共に敎へる所は何か、それは一言にいへば「戰鬪準備」といふことである。即ち如何に世界を征服する所の大なる心靈的の戰爭に嚮ふべきかといふ、其の用意の仕方を敎へたものに外ならない。今少しく其の事をお話申さう。

第一、弟子達は昇天の耶蘇にあこがれて、いつ迄も天を仰いで立つて居たとある。此上を仰いで神を慕ふといふことが宗敎の最も大切なる要素である。昔スポルジヨンは「我を仰ぎ望め、さらば救はれん」といふ句の説き明しを聽て、信仰に入つたといふことであるが其の如く私共は何時も上を仰いで神を拜み、神を讃め、神を慕ひ、又神を望まねばならぬ私共はモーセと共にシナイ山に神と語り又弟子達と

共に變貌山に耶蘇の神々しき御姿を拜まねばならね私共には人を避けて、神と我と、心ゆくばかり交りものいふ奥床しい宗教があり度いものである。

第二、弟子達は天の使に促されて、終に橄欖山からエルサレムに歸つた。人偏に山と書いて「仙」と讀み、人偏に谷と書いて「俗」と讀む。併し乍ら私共の宗教は、山の中にのみ通用する神仙の事ではなくて、却つて俗人の中に位し、日常生活の間に行はるべき實際的のものでなくてはならぬ。弟子達はエルサレムに歸つた。之は言ふ迄もなくユダヤの首府にて、宗教上から言へば大本山の所在地であつた。此一國の首府だの、又は大本山の所在地だのといふ如き所こそ、最も厄介なる罪惡の行はるゝ處であるヤコブの娘のデナは都を見物に出て、不良青年に誘拐せられ、家人の憂を惹き起したといふ事である。併し乍ら私共はさういふ都會を始めとし、津々浦々迄も敎化すべき責任がある。天を仰いで昇天の主にあこがるゝ神秘的の宗教は亦俗世界に、都市に突貫して、其罪惡と戰ひ、其の民衆を濟度する進擊的、實際的、平民的の半面がなくてはならぬ。

第三、山を出でたる弟子達は、大膽に都會に入つた而して或人の二階座敷を本陣とし、そこから軍の掛引することとなつた。「我に槓杆の置所を與へよ、さらば世界を動かさん」といふた人がある。私共には槓杆の置所がなくてはならぬ。私共には軍の勢揃ひをする本陣がなくてはならぬ。昔吉田松陰は二年半の間、疊八疊、增築して後十疊半の松下村塾にて諸生を敎へ。不完全極まる設備を以て、能く久坂、高杉、木戸、山縣、伊藤、品川、野村などいふ維新の諸豪傑を養ひ出した。此女子靑年會の本部が亦神の爲に盡す方々の根據地として用ゐられんことを願ふのである。

第四、二階座敷に集りたる同志の數は百二十人であつた。「二人心を同くすれば其利金を斷つ」とやら。聖書にも「二人は一人に癒る、三根の繩は容易く斷れざる也」などゝある。私共にも同志の人が欲しい

弟子達の周圍に集つた百二十人の中には、男女老幼種々なる人物を混じて居つた。併し乍ら彼等に共通したる一つの特質があつて、それは基督教の者の爲に艱難を忍ぶといふことであつた。「彼等は大なる艱難を經て來れり。曾て羔の血にて其の衣を濯がれたる者なり」彼等は數に於て少なかつたけれ共、質に於ては一粒選りであつた。ギデオンの三百の精兵は能く他の不覺卑怯なる三萬二千の軍勢に愈る軍を戰ふことが出來た。あなた方は亦其の當時の百二十人と同じ樣に、よく救はれ、又よく潔められて、喜んで耶蘇の苦みに與かる所の精兵でありたい。

第五、彼等は打寄つて祈禱した。基督は世を去る前に、其の名に由て祈禱すべきことを命じ、又日ならず約束のものなる聖靈を注ぐべきことを約束なし給ふた。それ故彼等は祈つたのである。たゞ其の中の幾人かゞ祈つたのではなく、一同が心を合せて、恒に祈禱したのである。私共はもつと神に祈らねばならぬ。信仰を以て祈らねばならぬ。心を合せて祈らねばならぬ。心をおとさずして恒に祈禱を續けねばならぬ。

第六、ユダが基督を賣りたる後、首をくゝつて死んだのは、如何にも忌々しい報道であつたと思ふ。併し乍ら弟子達は屈托しなかつた。「彼の務は他人に得させよ」と、彼等は直ぐに其の缺員を補充し、軍容を整へて進軍したのである。大村兵部といふ人は唯二つの號令しか用ゐなかつた。「右へ倣へ」と「前へ進めと」唯それ丈けであつた。「右へ倣へ」とは、齒の脱けた樣に斃れた兵の間隙を塞ぎ、軍容を整頓するとである。「前へ進め」は言ふ迄もなく進擊である、突貫である、奮闘力戰である。私共は味方をいたはりつゝ、然も卑怯未練な者や、不覺なる落武者の爲に煩はされず、直ちに彼等に由て出來る間隙を塞ぎ、軍容を整へて飽迄も進擊突貫せねばならぬ。

第七、併し乍ら神の御軍に勝利を得る最大の秘訣は神の親征を願ひ求むることである。活ける靈の御降臨を得て、救世濟民の大戰を戰ふことである。それ故に弟子達は聖靈を待望んだ。而して聖靈は彼等一人々々の頭の上に降り給ふた。ペンテコステ以後の大勝利は斯くして得られたものである。往て神の御力に由て勝利を得られよ。

謙遜

松宮彌平

他の人から見られて自分は謙遜な人であると言はれたい、又思はれたいといふ望を有つのは、誰も同じ人情であります。必しも自分は謙遜になりたくなくても、他人から謙遜な人と思はれたい考だけは盛に起るので御座います。さう言はれたい又さう思はれたいために、誰でも謙遜らしく見える態度をするのであります。例へば、私の宅で集をするとすれば廣くもあらぬ部屋へ澤山の人が集ることですから、床の前であらうが、座敷の上座であらうが、順次にきまりよく着席してもらひたいといふやうな場合でも、部屋の入口の襖の蔭に座つて居て、中々動かない人があります、出入の邪魔になつたり、後から來た人の妨になつたりしても少しも頓着いたしません。かういふことは謙遜なと見えるやうにする意味があるのでありませうけれども、一向感服の出來ない慣習であると思ひます。もとより我獨り豪らいものであるといふ様な態度で、あたり構はず床の間の前に坐込むといふやうなことは勿論氣をつけねばならない事で、基督も凡ての行を見られんが爲にする高慢なパリサイ人の如くに筵席の上座會堂の高座を好む事を誡められたので御座いますけれども、眞の謙遜は其の人の座る所や位地によつて定まるものではないので御座います。たとひ床の間の前に座つたからといつて、それが必しも高慢な譯ではなく、又部屋の入口の襖の蔭に小さくなつて控へて居るからとて、それが又謙遜な譯でもありません。某市に一人の鍼治を業とする盲目の按摩がありまして、私も其の人を知つて居ますが、それが少しの學問があつて按摩仲間の利けものである所から、常に自分は餘程豪らいものといふ慢心があつて、其の市に衆議院議員の選擧があると、自分が盲目でさへなかつたならば、立つて選擧を爭ふて乾度輿望を負ふて議政

府の一員になれると思つて居ました。そして眞面目に人の前に言つて居ました。實に人の自惚には限度がない。此の按摩のやうなのは身分は低いと致しましても、其の心の高慢に至ては誰が聞いても呆れるのであります。要するに高慢といふも謙遜といふも單に外に現はれた態度や位地や境遇で決する問題ではなくて。人其の人の爲の心の上の問題であるので御座います。

故に私共の常に警戒して陷らないやうに愼まねばならないことは、心からの謙遜を忘れないやうにすることであります。世には『謙遜高慢』といふ事があつて、自分は謙遜な態度を有つて居るとか、自分は他人から見られても恥しからぬ謙遜であるとか、謙遜にして居るとか自ら認めて居る人がありますこのやうな人は既に自分は謙遜であるといふのが一つの誇であつて、斯く人からも見られるであらうといふ所に自慢があります。畢竟このやうな人は自分は謙遜であるといふ慢心に捕はれて居るのであつて表面は謙遜に見えても心の中は高慢で御座います。即ち『謙遜高慢』であります。

謙遜な人になることは、さうなるやうに心掛ける筈でありますが、しかし自分で謙遜であると心づくやうでは眞の謙遜な人といふことは出來ないので御座います。眞の謙遜な人は自分の謙遜であることを知らないので御座います。謙遜な人は恰度野に咲いて居る匂の高い百合の花のやうなものであります。實に奇麗で立派で御座います。けれども百合の花自身には其の奇麗なことも立派なことも將た香の高いことも知らないのであります。人に示さんとする謙遜は未だ謙遜といふことは出來ません。自ら知らざる謙遜が實に奥床しい價打のあるので御座います。

さう致しますと、謙遜はどんなものでありませうか、今少しく其の持前に就て申上げて見たいと思ひます。そして便宜上これを個條に分けて申述べたいと思ひます。

（一）自己の位地又は職業に滿足すること。たとひ

つまらない商賣をして居りましても、下級の役人でありましても、其の職業の外の高い位地又は職業と同じであると思つて神の旨に從順なる心懸けを以て熱心に勤めるので御座います。例へば教會ならば禮拜に出席する人々を親切に待遇することに働く信者も、矢張り牧師が說教する役目を大切に忠實にすると同じく信實に親切に働くのであります。すべて人の職業は人の目には詰らないと見えることでも、神の目には甲乙はありません。神は自分の力を知つて適當に與へ給ふたものと信じ滿足して勉めるは即ち謙遜であります。

（二）人からの報賞を求めないこと。キリストの時代には人と見られんために救濟や慈善を致しましたパリサイ人がありましたが、二千年後の今日でも矢張り大正式のパリサイ人があるのが御座います。一寸寄附金をするのでも他人の前を氣がねして、額を定めるとか、甚しいのになると唯だ何某は何事業に幾何々々の金を出したといふことを世間の人に見られたいためにする人もあります。これは決して謙遜ではありません。施濟をするにも、義捐をするにも眞に其の事業を助くる精神からして全力を盡すのが本當のことであり、それが即ち謙遜な仕方であります。レプタ二つを投げ入れた寡婦は、多く投げ入れた金持よりも、キリストの褒辭を受けることの出來たのは、其の謙遜として信實な故でありました。

（三）人の缺點を隱すこと。他人の缺點を數へ立てたり、近隣の人を議することは、すべての人の免かれ難い弱點であります。實に私共人間は他人の長所を見るは難くして其の短所を認めるのが早いのであります。しかし謙遜な人は他人の缺點や短所を見るにつけても常に自分に引きくらべて同情し、缺點を隱さんことを勉めるのであります。天路歷程を著したバンヤンが或時町へ出た途中で、一人の殺人犯が獄吏に連れられて死刑場に送られるのを見ました時に、非常に其の囚人のことを思ふて直ぐに自分の身の上に引きくらべて「私がこれ程神の恵を受けて居

ないならば私も亦此の人と同じやうに刑場へ送られる人になつたであらう」と申しましたといふことで御座いますが、謙遜な心は決して人の落度を拾つて之を責めるものでなく、進んでこれを隠さんとすると同時に、自分自身が大に反省するのであります。

（四）怒の心のないこと。考へて見ると怒の原因は必ず高慢で御座います。高慢な人ほど怒り易いのであります。高慢な人は他に噂されても不滿足ならば必ず怒るのであります。自分よりも他人の方が豪いと褒める評判にも腹を立てるのであります。私は或信者が同じ教會に屬する一人の信者が自分の批難をしたと聞て、大變に立腹してもうそんな人と一緒に禮拜に列する事は出來ないといつて、教會へ出なくなつたことを知つて居ます。勿論 徒 に他を批難したり惡評をいつたりして礙を與へことは、本當に私共お互に常に注意せなければならないことで御座います。けれども人が自分を惡評したといつて其の人を恨み教會へ出席もせず、それが當然のやうに思つて居るといふのは、更に自分の高慢不遜をあらはして居るといはねばなりません。果して謙遜なものならば先づ惡評した人を責める前に自分に反省すべき筈であります。

（五）よく忠言を容れること。また謙遜な人は能く人の忠告を喜んで受けるので御座います。たとひ自分の受くべき筈の忠告でないと思ふやうなことでありましても、決してそれを惡しく思はないで、之を受けると共に若し自分が反省して成程と感ずるならば一生懸命になつて其の缺點を直すやうにするので御座います。故に謙遜な人は蟠つた頑固な心は少しも持たないばかりでなく、何か間違つたことをしたとか、罪を犯したといふやうな場合でも、言譯がましい事は言はないで、飜然として悔改めて正しきに引返すのであります。そして益 理想に進むやうにするのであります。他人の忠言を容れることが出來ず、又過を知つても悔改めることが出來ないならばこれほど心の高ぶりの强いことはありません。一

體人の忠言を容れることが出來ないのも、過を知ることの出來ないのも、すべて自分の足りないことや不完全なものといふことを顧みないで、唯自分は他人から批難されるやうなものではない、豪いものであると自認して居る結果でありまして、他人の短所は目についても自分の短所は目につかないからの事であります。即ち他人の目にある塵を見て自分の梁木に氣がつかない結果で御座います。こゝが謙遜の人と謙遜でない人との明かな境目であります。米國の南北戰爭の時に某司令官が部下の參謀將校を集めて參謀會議を開きました。其の時に參謀の一人は戰略に就て發議いたしましたが、司令官はそれに贊成しないで、司令官の考通りにして戰爭を致しました。しかし司令官は敵に對陣してから自分の考よりも前の參謀の戰略の方が確に有効であることに氣付きました、乃ち司令官は前の參謀を呼んで自分の考違であつたことを言明して、再び參謀會議を開いて考違ひの點を一同の前に公表して策戰計畫を立て直して戰爭したといふ話がありますが、普通からいふ場合にはよくも惡しくも我意を通したいのが通常軍人の態度でありますけれども此の司令官のした事は實に立派なものであると私は思ふので御座います。かういふことは謙遜な人でなければ到底出來ません。

(六)勇氣のあること。思ふに謙遜は勇氣の一原因で御座います。私は彼のダビデとゴリアテの戰を考へて見ます毎に、あの時にダビデが自分の力を恃んでゴリアテを輕蔑すること恰もゴリアテがダビデに對する樣な譯であつたならば、其の運命は既に其の石を投げない前に定まつたと思ひます。ダビデは敵將の首を取らねばならぬといふ熱心と、自分の一枚羊者に過ぎないものであるといふ謙だつた心と、この二つのものによつて大奮發心が起つて終に成功したので御座います何事によらず、撓まず屈せず勵んで行くといふことは、常に謙遜な人でなければ出來ないのであります。學校の生徒が英語を學ぶにしても、教師から其の間違を直されて幾度も〳〵言直し

て勉强するといふのと、教師から間違を指摘されて恥しく思つて再び口を開かないのとでは、どれ丈け其の結果に於て相違を來すか分りません。

(七)進歩的なること。或人が或事を深く研究して其の考究したことの尙ほ上のことを質問したいと思つて、或有名な先生の所へ參りました、其の先生は快く其の人を座敷に引いて、色々其の研究したことを聞きました。其の先生の態度が如何にも謙遜であつて、質問に答へるといふよりも大に注意して其の人が研究したことを傾聽して其の人の智識を採りたいといふ風であつて、質問に行つた其の人は却て先生になつたやうな工合で、自分ながら恥しく思つたと同時に、其の先生の謙遜に感じ、學者といふものはかくの如く謙遜でなくては眞理を見出すことは出來ないものであらうと話したことを聞きました。どうしても何でも承知して居るといふやうな風の人は他の智識に接する場合が乏しいですから、自然進歩いたしません。孔子の言つた「知るを知るとし知らざるを知らず」として廣く智識を求るとは謙遜な人のみ爲し得る所と思ひます。誰も知る通り子供は人を困らせる程何でも質問するもので御座います、何でも聞て何でも覺へていくらでも進歩するのが子供の子供たる所以であります。子供が斯くするのは智識を求むることを少しも恥しく思はないで、又自ら知つた風をしないで、本當に天眞爛熳たる謙虚な所が見へるのであります。基督が嘗て嬰兒の如くに謙遜でなくては天國に入れないと仰せられたのは即ちこの間の消息を語るものではありますまいか。

(八)犠牲的なること。高慢な人は何事によらず何時でも自分の事を先に考へて居ります。即ち自己中心であります。利己本位であります。從て自己の滿足を得られなければ常に人に對し世に對して不平の心が絕へません。けれども謙遜な人は能く自分の境遇から他人に同情することが出來ます。又自分は損失を致しましても人と世のためになる利益を考へることが出來ます。古より博愛慈善の人々が或は罪人

救護のために、貧民救助のために、病人救濟のために、其他あらゆる救護事業のために身を挺げて働くことが出來、又現に働きつゝあるもののある所以は悉く人の前に謙だつて自己を空うした心掛の結果でないものはありません。耶蘇基督が私共に示し給ふた心は即ち此の心であります。即ち基督か天の位を抛つて地の人を罪より救はんために卑しい身分となることを辭せず、犧牲となり給ふたことは何と大なる謙遜ではありませんか、私は基督の生涯に於て謙遜の全き摸範的事實を學ぶことが出來ると信ずるのであります。（本篇は某外國女教師の意見に基き卑見を加へて起稿したものなれば玆に附記し置く）

われらの君なる
エスキリストは
いとたかき神の
御子にしませど
いやしき此のよに
うまれたまへり

耶蘇の復活

長谷川　喜多子

今日は復活祭の終の日で御座いますが、皆樣は此日曜日以來耶蘇の復活につき御考へになつたことと思ひます。福音書馬太傳二十八章の一―十節までを讀みエスの復活は如何なる樣であつたか心の中で其光景を書き出したいと思ひます。

アリマタヤのヨセフはエスの屍を潔き布に包み新らしき墓に入れた。其當時の墓は天然の巖窟の如くで日本のやうに土を堀つて埋めるのでなく天然の岩の穴へ遺骸を橫へるのである。エスが其處に置かれたる間、役人達は他人が盜む事を怖れて封印し護衞を附けて置た。キリストを信じ畏れ尊ぶ人達は如何なる安息日を送つたかといへば彼等は皆深き所に入つて居た。安息日が終り、其翌朝墓を觀に來りし者は大いなる幕が上より下へ切れ岩割目より裂け天地

暗黒となりしを目撃して心搔き亂れ實に感慨無量で居たであらう。又エスの身に油を塗らんが爲、墓に到りしに、大いなる地震あり、轉し難い石も門より轉び、其の封印は切れ嚴めしい羅馬兵も大なる威光に戰慄きたぢろぎ、婦人達は皆狼狽へ怖れた。然し彼等は天使に逢ひエスの甦を聞きキリストにある事を喜んだ。實にエスの甦こそ基督教にとりて一大事である。エスが三年間說敎なされた其言葉に於て彼は權威ある人として云ひ給ふた。即ち約翰十章の十七五十八節、或は山上の垂訓の中にある「我汝に告げん」といふ言葉の中にも新たに權威が含まれて居るキリストはユダヤに住み普通の人間の如く死に封ぜられたならば唯だ偉人としてそれきりであるのに彼の甦の爲に彼に一層の權威を示し、又其榮光により人間の側としても神は如何なるものなるかを知るならん。然しエスの一生を顧れば悅こび幸の生涯にあらずして悲しみ惱みの一生である。人間の性は善なれば斷えず改善を要する或る一方には適しても一般の求めに應ずる事が出來ない。然るに基督教は二千年前も今日も否以後の世にも變らぬといふのはこれ基督教が神より來た故であることが明かである。

エスの甦が眞でなくば基督教は空しいのである。聖ポーロは哥林多前書十五章の十―二十四に曰ふ「キリスト若し甦らざりしならば我儕の宣る所徒然し又爾曹の信仰も空しからん」と。エスの甦の證據を擧ぐれば即ち(一)墓を守れる兵隊等は其光景を見て懼れて其氣も顚倒した(二)馬太廿八の十一―十二にある如く祭司の長等はエスの甦を聞き多くの金を兵隊に與へて事實る曲げた、甦りを事實と見、まさしく大變だと思つたからこそ兵隊に虛言を吐かせ自ら虛言を吐いたのである(三)エスは種々の人々に現はれ給ふた事實(イ)テベリアの湖にて弟子達に現はれ給ふ(約二十一章四節)(ロ)二人の弟子に自らを現はし給ふ(路加傳二十四章十三節)(ハ)一週の初めの日暮方門を入り弟子等の中に立ち給ふ(約翰廿章十九節)(二)マグダラのマリヤに現はる(馬可十六章九

節）（ホ）五百の兄弟にも現はれ給ふ（哥林前書十五章六節）これ等は動かすべからざる事實である。我々は親友に別れる時は涙をもつて別れる。然しキリストの死は榮光で、別れても我々を案じさせぬ。即ち我々は死してもキリストにある事を望む故死は怖るるに足らぬ事を見、死を以て死に打勝つ事が出來るのである。エス在世中死を如何なるものとして敎へられたかといふと彼は死を眠といつて居られる。一時の間の眠にて未だ望みありとす。ヤイロの娘の死んだ時も彼女眠れりといひ、ラザロ死して四日目になるに彼眠れりといはれた。人間の死は罪の結果である。アダム罪を犯してより死、悲、涙あり。然しエスにより死は希望ある命に入るの門なる事を敎へらる。甦つたエスは固く閉された門をも直ちに明け、時間や空間には支配されず、其等に超越した身である。羅馬書六章九節はキリストの死を示す。默示錄一章十八節に「我は生者なり前に死しことあり、視よ我は世々窮なく生きん」とある如く、エスを信ずる者は彼の甦により死して後にも大なる生命に入る望みを敎へらる。蓋し彼の甦は我等の救主としての資格である。故に日曜日毎にエスの復活を紀念してもらひたい。或敎會にては復活祭をクリスマス祭より盛んに祝ふ所もある。使徒等でもペテロは說敎の初めにエスの復活を主とし、甦はキリストの最大事なることを宣へ傳へた。基督敎は世の唯一つの世界的宗敎にて佛敎より善き所あるは勿論、他と比較し得られないといふ丈の確信が必要である。人を敎導するやうな人はこの精神なくてはだめである。此敎は小刀細工の如くに考へられたのでなく、絕對的にキリストに信仰をもつのである。凡て幾人かの信者を集めるには何か眞理があり、又其眞理ある所には何かがあるのである。

キリストの甦は慥かに大なるもので、我等はエスと共に我儕をも神は甦らし給ふ事を確信するのである。故に日曜日毎にこの偉大なる事を眞に考ふならば毎日の生活に於て罪に打勝つ經驗は實際に表はれ

生氣に滿ちてキリストの如き生涯を送ることが出來るてあらう。キリストの事を考へつゝ世を送るこそ眞の理想である約翰第一書三章二節にある如く、終には神の眞の子供となる事が出來るのである。故に我等も各々此理想をもち努力したいと思ふ。

（四月廿九日女子青年會役員聯合會講話會摘要）

加州其他に於ける働の一二

在米河井總幹事よりの來信中に米國加州其他に於ける白人及日本人基督敎女子青年會の最近の活動につき報告し來りたるものあり其の働の模樣の概略を知るためにと一括して左に掲ぐることとなしぬ。（記者）

○社會敎育運動

加州オクランド市日本人社會の爲めに基督敎女子青年會の計畫

王府白人女子青年會は一昨年來在留日本人に對して非常の好意を寄せ既に同胞婦人にして同會の正會員となりし者數十名あり、又一方には大和倶樂部なるものを同會内に置き、日本婦人と接近し語學の研究裁縫刺繡其他種々の研究を爲さしめつゝあり、過日の如きは年齡九歲以上の日本少女二十餘名を招き、茶菓遊戲に半日の娛樂を與へしめたる等、當方の想像以上に好意を表し居れるが、來春早々同青年會內に日本人母の會なるものゝ設け、時々同胞婦人の來集を求めて、家庭敎育其他家事衞生等に就き講演會を開くの計畫あり、既に王府日本人學校長畑寬三氏此件に關し先方より相談を受け、極めて必要有益の計畫なれば大に賛成の意を表し、一月末に開催の筈なりし同小學母の會は或は前記女子青年會內にて開くに至るやも知れずとの事なりしが、右社會敎育の任に當るべき人は、多年日本に在りて日本語に通ずるタピング孃なれば諸事好都合なるべく、又母の會である以上はこれに子供の附纏ふは言ふまでもなき事なるに依り、同青年會は日本婦人の集會時間は子供を別室に收容し世話主任を置て保護するの設備あり、從て子供同伴にて出席するも何等の妨げなく種々便宜を與へられる都合なりしと。

○日本少女招待會

王府女子基督教青年會主催

王府基督教女子青年會は豫て日本婦人に非常の好意を有し同胞婦人にして同會正會員たる者も八九名あり亦別に大和倶樂部なる者あり之れには會員以外の日本婦人も加はりウエブスター街の同青年會館内に一室を與へられ、英語裁縫等の研究を爲し、日本贔負のミーラー孃常に之が世話を爲しつゝあるが、同會は今後日本の女子と一層親交の機會を得んとて、昨年十二月十八日午後二時卅分より、九歳以上の日本人少女を同館に招待し、茶菓の饗を爲すべく堂本嚮之進夫人畑小學校長及當支部にも招待狀を寄せ來りしが、少女達に一々案内狀を發せざるにより、同胞父兄にして九才以上の女兒を持つものは、相當の服裝を整へ、成るべく努めて出席せしめ、先方の厚意に副ふやうにし指定時間を誤らざるやう注意し出席したるも多かりし。

○女子青年會と贈物

羅府日本人基督教女子青年會にてはクリスマス祭日に際し、同胞間に於ける不幸の家庭に對し、慰藉の意味にて贈物を爲さんため、各委員手分にて一般に向ひ贈物募集に着手せし由なるが、篤志者より寄贈品としては現金又は鑵詰、衣服等の如き品の寄贈を仰ぎたりと。

○育兒法教育幻燈

ロスアンゼルス市日本人基督教女子青年會にては、米國在住日本婦人の育兒法に關する智識乏しき者により、育兒法教授の目的にて三月卅日より各所に於て育兒幻燈會を開きて觀覽せしめ、懇切に説明を與へしが、其場所及び日取は左の如くなりし。

△卅日午後七時半美以教會下町傳導館△四月一日午後二時半羅府圖園△午後七時半マリポサ街聖公會△三日午後七時半ハリウード△四日午後七時半ジョージヤ街美以教會△五日夜ロングビーチ△七日午後二時半ウォール街基督教會同夜コビナ。

○ホノルヽ日本婦人會の組織

布哇ホノルヽ在住日本婦人會は領事有田八郎氏夫人等の熱心なる斡旋によりて纒まり愈三月二十九日發會式を擧げ

たり名譽會長には有田領事夫人ヤス子を推薦し重なる在住日本婦人役員に選擧せらる。

○櫻府市女子青年會　加州サクラメント市白人基督教女子青年會は二月　日總會と共に記念祝賀會を其會館に開きたるが、日本人基督教女子青年會にも亦招待狀を寄せ來りたるにより、同會よりは中村牧師、柴ドクトル、赤堀哉氏等の各夫人及び脇本孃等之に出席したり、赤堀夫人、脇本孃は日本服にて盛裝し居たれば、一層外人の注目を惹き、餘興の節には何れも日本人と遊戲を共にせんと求むるもの多く頗る愉快の會合なりしと云ふ。

○櫻踊り舞妓慰問　日本人女子基督教青年會にては、エンゼル島移民局に收容され居たる櫻踊り舞妓連の薄倖なる境遇に同情を表し、昨年十二月廿三日幹事ハウオス夫人及び會員數名を派遣し、種々慰問の上、一同に下着各二枚宛と風呂敷其他の日用品を贈りたるに、何れも非常に悅び好意を感謝したる由殊に病氣にて病院に收容され居る上野とめ子の如きは涙を流さん許りに喜び居たりと。

思出のまゝ

松宮生

歌集『夕はえ』

▲『夕はえ』は野口精子夫人の歌集である。過去五六年間に於ける千數百首の中から六百餘を撰んで、本書に收めたとある。過去五六年といへば夫人が上州生活の時代である。其の序文に

「過ぐる五年私が上州前橋に在つた間、內的外的兩面の生活と彼地自然の風光とが經緯をなして其の大部分を占めて居ります、大利根の流を隔てて遠く淺間の噴煙を眺めた、あの夕映の美しかつたこと、遂に深く胸底に遺されて此の一卷の名親にまでなつた次第であります。」

とあるのを讀んでは、先づ此の歌集の懷しさを感じないでは居られない。何故なれば上州前橋は私の故郷である上に、野口氏一家の前橋生活には少なから

ぬ因縁のある私に取つては、あの夫人が都の生活に憬れて「いやだ〳〵」と言ひ通された田舎生活の產物として、こんな大きな記念が生れたかと思へば嬉しい愉快な心地がして、以前のこと共を思ひ出さずには居られないからである。

▲元來、私は歌など解せぬ不風流者と友人等に笑はれる。しかも自身にはそれ程の不風流無趣味とも思つては居ない。しかし詞句をひねくり廻し、實際とはすべて沒交渉な、所謂詩人の詩人氣取りの詩や歌はどうも如何に風流になりたくも趣味がない。とんと虫が好かぬ。もとより歌といひ詩といふ以上は詞句も整へ意藻も練らねばなるまい。けれどもそれ等の末技にのみ捉はれて、眞に心の躍動があらはれないのは、實に見るに堪へず聞くにも堪へない心になる。『夕はえ』に於ての懷しみのもう一つは此の嫌味がないところに在る。快よくこれを通誦することの出來るのは蓋しこれが爲である。

▲『夕はえ』を見て居ると、自然に著者夫人に逢つて話して居るやうな感じになる。

とらへ來て蜻蛉の番をせよといふむしの臣と母をなすかな
我病めば日に幾度か泥汗の身をすりつけに來たるひとり兒
臺置きて父の胸まで脊のびぬと兒はよろこべり春の風吹く
食の後梨子かむ君が齒の白きこゝちよき日のつゞく此の秋
秋めきて風のにほへは川に出てて眼物すなり氣の好みより
このころのわが生活を散文の如しとおもひ板の間を拭く
かくはかり物の悲き日のありや暮れて障子の切張りをする
こと〳〵と水車のひゞき刻々にいのちをきざむ靜かなる夜
春は行く其夕ぐれを雨となり庭面にあかくむせぶアネモネ
はなを剪る鋏の音のさはやかにこゝろにも鳴る初夏のあさ
春の旅雪の碓氷をいま越ゆと父のはがきの假名書きとして

此に至つては最早夫人との對談にはあらで、彼の會堂後の罪なき家庭の生活があり〳〵と思出される玆に先生も光ちやんも乃至京地から取寄せて蒔かれた庭の花も、後隣の糸挽屋の水車も、そして「かくばかり物の悲しき日のありや」てふ夫人の主婦振りまでも偲ばれざるを得ない。

▲淺間が

生か死か何に心の狂へるや轟きやまず今日も火の山

の時代の或る年私共の一家が輕井澤に在つた夏の日

夫人が令息を伴ふて訪はれした淺間の麓の高原の旅の初夜は殊に激しい轟音に耳を裂かれるやうな怖しさであつた。實に

輕井澤旅の初夜を山鳴りのはげしかりしぞ殘る思出
夜明けなば往ぬべしといひ山鳴りを恐れて泣きぬ罪知らぬ兒も

しかし輕井澤の夏はまた格別である、山鳴りし夜の怖しさは山眠る夜の心地よさによつて償はれた。

火をおさめ山眠る夜の月白し旅寢の夢に冴ゆる虫の音

そして幾日かの逗留は今までもなほあの時の數々の思出をわが一家にも殘して居る。

▲又詩や歌を以て「悲しい玩弄物」と見ない夫人の眼には常に大淺間の雄姿を眺め大利根の奔湍に臨んで詩趣をやるばかりでなく、更に憐れなる人の子の影をも見のがすことは出來なかつた。

いのちなき泥の人形はけふもまた孜々と動けり機械に似たり
夜のふけてわか耳にすむざれ唄の幼き際になみだするかな

これは實に上州に於ける活ける社會問題である。これが矢張り山姿水趣と共に夫人の胸裏の琴線を彈いて居た。

▲夫人も亦終に信仰の人なりけり。

心にも神をまつらふ美しき宮をば建てむ今日のいのりぞ
我むねに神の宮居のなる日までたくみの業をなほつゞけまし
このあした淸きいのちをまづ祈る思ひ出よしや山の白雪
ひとり生き獨りあゆむとかくばかり驕れる心さびしき心

▲私は歌の善惡を知らぬ。それをいふのが私の目的でもない。再び繰り返して「夕はえ」は懐しいと言ひたい。私は夫人から「夕はえ」を寄贈せられて、見るからに直ぐさう感じた。此頃幾度か繰返し見て更らに其の感を深うする。

和歌

辻村靖子

朝

中空に消え行く月のこゝちして
かすみにけりな天つ日の影

暮春

中空にきえ行く月のこゝちして
かすみにけりないづる日のかけ

初夏

大空にひれふる鯉のかつみえて
わかめ美くしこがくれの宿

悼亡

いとはやもいにし君かな亡き人を
送りたびしも昨日と思ふに

哀

あこ亡くてひろき衾のさむけさに
乳房いたみて衣ぬらしける
一夜だにかれてはいねぬおやを離れ
こけのまくらやつめたかるらめ

花の日

北見くら子

花まつり眞玉白玉主をまつるすがた美しくも花に置く露

鈴を振り鐘打ち鳴らし花の日を祝へホザナを呼びまつれ今朝

野に立ちて其の聲を聞けキリストの殉教の血と燃ゆる紅百合

死の影の谿に光りを投げて來し聖き使者と白百合の咲く

うなだれて何に憂ふるや野の百合よ明日の生命をはかなむや汝れ

キリストの殉教の血のしたたりやあはれ火とこそ燃ゆるひなげし

草の精月にあこがれものおもふ月草に見るはつなつの夢

何物にかゝはり知らぬなりはひの我が此のごろよ紅の花

眞實に生きんとねがふ自らをあざむく事の多き世なれば

日記の中より

二十四年の生涯――醜い失敗の跡のみ鮮かである、而して是等の苦しい過去の追憶を誘ふ、すべての場所と、すべての人とは、私にとつて可なりに辛い鞭である。併し一番強い鞭はやはり自分自身の中にある事を思ふ時、私は神に感謝を禁ずる事は出來ない。何故なれば、ともすれば鋭く立たんとする、

社會に對し人に對する呪の鋒先は、其の爲めに全く挫かれて終ふからである。

自分の蒔いたものは又自分で刈らなければならない、それが刺多き荆棘であれ、實なき空穗であれ。

二十四年！　決して短かくはない、其間に神を畏れず、人を愛さず、己れを省みずして、蒔いた種子の悲しい收穫を涙と悔とを以て、今私は刈り集めて居る。

等分に聖ゆるしを切願ひつゝ。

人の赦を求むる時、其所に不安があり、失望が伴ふ。されど此羞恥と悔の涙にぬれた顔を、神に向ける時其所に全き赦があり、力の源があり、愛と平和の泉が溢れて居る事を見出す、そして痛ましい刈入れの終りは早くも近づきつゝある事を感ずる。

新しき種子を!! 新しき種子を!!と、私の靈は叫ぶ

「悔改めとは過去に於ける一切の罪、怖、疑、を捨て、古き生涯より全く脱して、神の力によりて眞に新なる生涯に入るといふ。」

眞に此經驗を土臺として、新しき生活の建築に努力せねばならない。

信仰生活とは、生活の中心にキリスト在して、其支配、統一の下に營まるゝそれであると思ふ。

自分の生活の中心に、果してキリストは住み給ふや否。不統一な、不徹底な、しかも矛盾多き此生活は其然らざるを明に證明して居る。

自己の全活動——内的にも外的にも——が皆此の一中心點より發足する時、知らずして神の榮を現し聖旨にかなふ道を辿り得る事と思ふ。

「キリストは全人格を支配し、賤しき者の心の中に、彼の玉座を占め給ふ、即彼は意志、感情、欲望、動機一切を支配し給ふなり。神は我中に在し我は神の中にある。」

といふ私淑せる愛師の言に、今更の如く新しき意味を見出す。而して己れの生活も、亦斯くの如きものたらん爲めに、切に祈るべきなるを感ず。（H、A、）

日曜學校教授の準備に就て（一）

吉田敏

先づ日曜學校教師が自己の教えんとする學課に就て、仕度をする順序を述べて見たいと思ひます。

日曜學校を教える時に、例へばキリストの傳とかダビデの傳とかソロモンの傳とかといふやうに長い間同じ人の事について教えることが御座います。さういふ場合には最初に其の教える人の傳の大體に就て、即ち其の人の生涯の概略に通じて居ることが必要であります。即ちキリストの傳を教えるとするならば、先づキリストの誕生から死に至るまでの事柄が一通り知れて居ないと、其の傳記中の誕生或は傳道或は奇跡などの一事項を教えるにしても、前後の關係などか分らないで、適確なる教授は出來ないのであります。從て其の事實に就ての教訓を當嵌めることも出來ないので御座います。それは普通の學術を教えるのでも同じ事であります。例へば歴史を教える教師が豊臣秀吉の朝鮮征伐を教えるにも單に其の事柄をのみ教えるのは充分でありません。其の起因から其の結果まで、又秀吉の生立ち及び立身した事から一通りの事を心得て居らなければなりません。又地理を教えるに致しますれば、東京府の地理をどんなに詳しく知つて居りましても其の隣縣などの地理を少しも知りませんならば東京府の事でも出しく教えることは出來ないので御座います。又日本の地理を教えるには只日本の事丈けでなく、矢張り支那や米國の事は勿論世界中の有樣をも一通りは知つて居らなければならないので御座います。それと同じことで聖書の中の人物なり事實なりを教えるにも其の當面の事ばかりでなく、すべてそれと關係のある事柄は其の大體丈けでも一通りは研究して置く必要があります。

それ故に、其の仕度に就て必要なことは一は先づ

自分の爲に學課を勉强することであります。其の時は全く生徒の事は忘れて仕舞つて自分の爲ばかりを考へて研究するのであります。そして多くの人は其のやうな塲合には註解などによつて研究すればよいと思ふのでありますが、勿論それは勉强を助けるに相違ありませんけれども、第一に聖書を以て註釋などには構はないで研究することが大切であります。さうして得た考は全く自分の頭から絞出した考でありまして他人の考を聞いたり註釋書の取次をしたりするのとは違つて、聞くものにも少なからず感動を與へるので御座います。たとへば牧師が説教するに致しましても説教集などを讀んで其の中から引拔いて受賣説教をするよりも、全く自分の信仰上の鍛錬により經驗上から割出しますならば、其の方がずつと値打があるのであります。

　そして聖書について一應分つたならば進んで第一に其の歴史、即ち其の時代の風俗や其の時代の思潮などを調べるのであります。又其の時代の政治上の有樣、役人の風、政府と人民との關係、國家の成立といふやうなことも研究するのであります。例へば舊約書にある路得記を研究するとすれば、其の畑の麥の穗を拾ふ風習はどんなことをするのでせうか。又其の時代の思想信仰＝神に對する態度はどんな風でしたかといふやうなことを研究するのであります。

　次には地理で御座います。或人は聖書は信仰上の助のために學ぶのでありますから地理などには一向關係はないやうに考へて居る人もありますが、それは決してさうで御座いません。たとへば今日の歐洲大戰爭についてもさうですが、地理上の智識がなければ、新聞を見ても何處でどういふ工合に戰爭をして居るのか薩張り分りません。それと同じ事で聖書の中にある地名を見ても其の名は町ですか人ですか、それ程でなくてもそれは町とすれば何國に在る町ですかといふやうなことが分らなければ、少しも聖書の研究にはなりませんのであります。例へば基督のガリラヤ傳道を研究するとすればガリラヤ湖はどんな位地で其の周圍にはどんな町がありましたかといふやうなことはよく承知して居らねばならないことであります。パレスタインの地理などを能く頭に入れて置くことは特に大切なことであります。

それから第三には教へることにつきて想像することが大切であります。これは其の時代、又は人物のこと、又は其の事業活動、又は其の思想等につき、自分が其の立場になつて考を廻らすことであります。例へばモーゼに就てならば先づ自分がモーゼの位地になつて、同時にモーゼの從者になつて其の言ふ所を考へるのであります。豫言者の說教などは何時も其のやうな考になつて其の裏面にまで自分の考を及ぼさねばなりません。パウロの如きは其人に同伴されて傳道に行つたことになつて、其の說教や境遇を想像するのが大切であります。

其次には其の研究して居る事柄に不明な點があれば、それを自分に滿足が出來るやうに探究することであります。聖書の事柄の全體の意味は能く了解することが出來ましても、少し詳しいことになると分り兼ねることが澤山あります。もとより根掘り葉掘り一字一句も苟もせないやうに研究して居るならばそれは中々議論の盡きない處もあらうと思ひますけれども、其精神を棄てない範圍に於て能ふ限り明瞭正確を期して研究することが必要であると思ひます。

又其の次には其の記者の考について考へて見ることであります。即ち馬太傳ならばこれは誰が書いたのでありますか。又これは何を目的として書いたのでありますか。其の著者と其の書いた目的などを研究すれば其の中の或る事柄はどういふ考でそれを記載したかといふやうなことも自然と分って參ります。

第六には其の學課の教訓は何であるかとかを思出すことであります。既に申述べた丈けのことを調べますならば、其の學課の中に含んで居る教訓は何でありませうかは自然に明になつて來ると思ひます。聖書程教訓の多い書物は御座いません。教訓を見出すことは誰にも出來やうと思ひます。若し教訓を見出すことが出來ないといふならば、それは其の研究の忠實でない證據であります。そして自分の心に得た教訓は即ち日曜學校生徒の前にも亦立派な教訓となるのであります。隨分日曜學校教師の中には學課の書物などを暗誦して生徒に對する人もあるやうですが、私は自分の心を通して研究したものでなければ結局愚な準備に終るであらうと信ずるものであります。

彙報

○定期中央委員會

五月十五日午後三時神田北神保町本部事務所に於て定期中央委員會を開く。出席者は井深花子、ミセス、クンメント、ミセス、フイッシャー、ミス、ペーカー、室原、津田梅子、小柴木松子、星野愛子、三谷民子、志立たき子、ミス、ペーヂ、ミス、カフマン、ミス、エマソン、加藤高子、ミス、レーガンの諸姉にて、井深花子姉の聖書朗讀星野愛子姉の祈禱を以て開會す。初に三谷姉の前回記錄朗讀あり、受入即决。ミス、レーガンの合計報告書朗讀あり、これ亦受入即决。それより諸報告に移り、ミス、ベーカーは横濱女子青年會、加藤高子姉は東京女子青年會の各報告あり、次に松宮のぶ子姉より學生女子青年會支部の狀況を報告し尚役員及委員聯合會につき左の報告あり。

女子青年會役員及委員聯合會は横濱、神奈川、東京に於ける女子青年役員及委員のため四月廿九日開會し來會者五十七名にて八青年會を代表せり。先づ井深花子姉聖書朗讀三谷民子姉の祈禱につきて井深姉の歡迎辭にて開會し、引續き會長、宗教集會部、聖書研究部、社交部、會員誘導部、財政部、傳道部、慈善部、仕事部販賣部等の委員長が各八組に分れその指導者はミス、カフマン、星野愛子、三谷民子、ミス、マクドナルド、植村環子、河口正子、藤田貞子、松本まつ江子の諸姉にて各の協議をなしたり。會終りて長谷川喜多子姉の講演あり、午後は井深姉より萬國基督教女子青年會及日本基督教女子青年會本部の事業報告あり、續て加藤高子姉司會の下に討議會ありて後親睦會に移る、夕には志立たき子姉の司會にて山室救世軍大佐の講演ありて閉會せり云々。

次に小此木松子姉より夏期修養會につき報告あり（夏期修養會委員會記事參照）次に井深姉より財團法人の件につき左の報告あり。

ミラー氏遺言より同氏所有の麴町區平河町の地所及家屋全部を寄贈受入につき登記料其他費用は八百貳拾圓五拾四錢に付市税壹萬五千圓を納めざるべからざれど、これにて手續等すべて終了する筈なり、この手續につきては原、普賢寺兩氏の盡力少なからずよりて委員會を代表して書記三谷姉より謝狀を送られたし云々。

次にミス、レーガンは時下紙價其他の騰貴に伴ひ「女子青年界」は毎月缺損を生ずるに至りたる旨を報

告し併せて大正五年七月より一ヶ年前金八拾錢（一部金八錢）に値上げを爲さんとの提議を爲したり。
以上の報告は何れも報告の通り受入れ提議も亦可決さる。
それより在來河井總幹事よりの移民事業に就ての手紙の報告（寫を配布す）ミス、レーガンより在米マシウ總幹事の働に就きて同姉よりの來信及日本へ猶ほ一人の幹事を派遣せられたしとの願意は萬國本部に於て受入られしとの來信報告あり。
次に萬國本部へ祈禱目錄に載すべき要求項目はミス、レガン、加藤高子兩姉へ其の選擇を委任する事又ミス、トリストラム より中央委員を辭したき旨の申出に對し枉げて留任を交渉することに決す。
次に井深花子姉神戸に旅行者の友の事業を起し度旨の照會ありしが右は最早城のぶ子姉その事業に着手し居らる故本會にては新たに設くる必要なき事を報告あり。役員改選を爲し其結果左の如し、

委員長　井深花子
副委員長　岡見惠子
書記　三谷民子
會計　井上友子

又學生青年會に於て行ひつゝある事業或はなすべき必要の事業を研究し彼等を教導する委員を選ぶ事とし、其の委員にはミセス、フイッシヤー、津田梅子、ミス、エマソン、三谷民子、小此木松子の諸姉を推選したり。
次に定期委員會日變更の件に就き從前迄は第一土曜日なりしも今度は二月、五月、十月共各々第二土曜日に開く事に可決す。
又横濱英和女學校青年會規則を承認し本會支部青年會に加ふる事に可決。
ミスレーガンより女學生に善き書物の必要を述べ十冊或は二十冊の撰擇されし書物を翻譯出版し、其所得を以て倍數の書物を購入せん事を提出さる其資金はミス、レーガンより二三の米國友人に依頼する事とし種々協議する處ありて五時半閉會せり。

○夏期修養會委員會

五月十三日午後一時半より本部事務所に第三回夏期修養會委員會を開く、三谷民子姉の祈禱を以て開會し、擧行順序につき協議大略左の如く可決す。即ち

七月二十一日(金)夕、開會式。(井深花子、長谷川喜多子)　二十二日(土)朝、聖書研究。講演。(廣岡淺子)夕。夕陽會各支部報告　二十三日(日)朝(九時)讃美歌の組。禮拜。說教(今井壽道氏)　午後講演求道者の爲。(廣岡淺子)夕。講演。(城戶順子)　二十四日(月)早天祈禱會。聖書研究。講演。(星野光多氏)午後。親睦會夕。講演社會問題につきて。未定　二十五日(火)聖書研究。講演未定。夕。夕陽會。學生支部委員會　二十六日(水)早天祈禱會。聖書研究。講演。(稻垣氏)夕講演。婦人傳道につきて(長谷川喜多子)二十七日(木)聖書研究。講演。(山室軍平氏)夕。夕陽會。講演。法律問題　二十八日(金)早天祈禱會。聖書研究。講演。(植村正久氏)夕。閉會。

聖書の組擔任敎師は、城戶順子、內村氏、出村氏稻垣氏、

○東京基督敎女子青年會總會

東京基督敎女子青年會第十回通常總會は五月二十一日午後二時より同會館に於て開會し、來賓會員一同着席の上總幹事加藤高子姉の司會にて開會し、報告協議等の後衆議院議長島田三郎氏の演說あり、終つて茶菓の饗應ありて散會せしは午後五時なりし、同會の昨年度の事業報告は次項の如し

○東京基督敎女子青年會事業報告

東京基督敎女子青年會第十回總會に於ける事業報告は左の如し

本會は玆に過去一年間に於ける本會事業の經過及現況の概略を報告するに當り、神の恩佑の豐なりし事と本會事業が著しく一般社會の注意を惹くに至りし事と且同情ある各位の多大なる贊助を得て此の年度を終るを得し事を感謝せずんばあらず、されば本會は今後に於て益〻役員會員相互の協力を鞏固にし、一層の努力を以て事業の擴張發展を圖り本會精神の

徹底を期すると同時に舊年度に倍する神佑人助を得て其所期を空ふするならんことを祈つて止まざるなり。

（一）會員及委員　總數貳百七拾壹名

内｛維持會員 八十八名／通常會員 百八十三名｝　委員總數二十八名

（二）新會館落成　豫て神田區北神保町十四番地に建築工事中なりし新會館は大正四年十月に至りて竣工落成し建坪百拾餘坪の總三階造大建築を得たり。館内には大集會室、委員幹事室、社交室、圖書室、教室、家事教室、屋内體操場等を設け、一切の設備も整頓せり。十月十九日より二十三日迄會員、寄附者、婦人團體、女學生、女子有職者等を招待し開館式を擧行し、猶披露茶話會を催したり。新會館落成と共に本會事務所を新館に移したり。

（三）事業　△宗教部　（イ）聖書の組、總十八組。内十五組は女學生の爲、二組は實務に從事せる婦人の爲一組は看護婦の爲なり。毎週一回開會し總出席人員平均百六十三名を有す。（ロ）日曜學校、會員有志が近隣の兒童を集めて開き其數五校あり、出席兒童數平均二百餘。（ハ）諸集會、右の外に開會したる集會は萬國女子青年會祈禱會（同十一月十五日二十日）御即位奉賀祈禱會（十一月十四日）女子傳道講演會（二月五日）なり。△教育部　（イ）英語科　晝夜二組に分ち一週三回、會話、文法、讀方等を教授す、現在生徒は晝は主に女學生にして十七名、夜は女子有職者にして八名あり。特別英語の組は個人教授にして目下二組あり。二月二十六日英語文學會を開き、英文暗誦、朗讀、對話をなせり。（ハ）生花科、池の坊、立生、投入等にて毎週一回教授す。生徒四名。（ニ）體操科活潑にして上品に而も面白き體操、ダンス競技を撰び教ゆ。目下二組ありて邦人八名、外國人十六名。（ホ）佛語科、發音、文法、讀方を教授し生徒十名。（ヘ）簿記珠算科、實務に從事せんとする女子の爲めに便宜を圖りたるものにて目下四名の生徒あり。△諸集會本會が主催したる各種の集會は、（イ）降誕祭祝會、本會及本會所屬日曜學校寄宿舍生徒の催に

係るものにて前後八回に及べり。(ロ)懇談會、一月二十日、幹事寄宿舍々監、好友園保姆、旅行者之友係員等凡べて東京女子青年會所屬の働く者相集りて晩餐を共にし各自の經驗を語り猶將來相互の連結を一層深くし益々共力せんことを圖れり。(ハ)音樂會本會事業資金募集の爲二月十二日開會。(ニ)女中親睦會、本會所屬旅行者之友部に於て斡旋せし女中二十餘名、會員會友の宅より二十餘名の來會あり、尙來賓もありて講話及餘興ありき。(ホ)卒業生招待親睦會四月三十一日東京市內なる三四の女學校の本年度卒業生を招待し親睦會を催したり。(ヘ)其他、本會主催にあらざれども本會館を使用して集會を開かれしは外國婦人會、協同傳道婦人修養會、婦人傳道會社祈禱會及婦人團體委員會等なり。△寄宿舍　既設第一、第二の兩寄宿舍は常に滿員の狀況にして今回十月より開始せる第三寄宿舍は定員十六名、現在員は十四名。主に獨立せる有職女子を入舍せしむる方針なり。　△社交部　(イ)旅行者之友　目下上野東京兩停車場に係員三名を配置し每日其任に當らしめ居れり事業に附屬せる旅行者之友宿泊所は本鄉區湯島天神町一ノ二十四に設置し係員こゝに起臥し被保護者の爲に萬端の世話をなせり。大正四年中に此所に收容して保護を與へたるは百十八人なり其他臨機の保護支給をなしたるものに至りては其數を知らず(ロ)好友園　小石川區金富町五十七番地に在り專ら幼稚園事業を主としこれに附隨して各種の敎育傳道に働けり。現に經營せるものを擧ぐれば(イ)幼稚園　兒童四十五名。保姆(主任)助手各一名。(ロ)日曜學校　出席數平均八十名餘。(ハ)親の會　幼稚園兒童の父母兄姉の爲めに隔月開會し基督敎講話をなす。(ニ)英語の組　男兒の組二、女兒の組一。(ホ)聖書の組一。讃美歌の組一。(ヘ)オーガン敎授　八名の生徒あり。(ト)仕事會　每土曜日午後開會し常に七八名出席す。尙近隣の小學校兒童の運動場として每週二回庭園を開放し東京支部の會員交代に遊戲運動を監督せらる。

現在經營せる本會事業は以上の如しといへども、社會の狀態は凡て此等の本會事業の擴張を要求せり既設事業に附隨して必要なりと思惟せらるゝもの又進んで新に計畫開始せざるべからずと思惟せらるゝもの亦尠なからず。本會は一々これが調査を遂げ其の必要に應じ、先づ急を要するものよりして漸次着手の道を得んと欲す。

◎宇都宮女子青年會　凡ての物皆私共を刺激し勵ます好時節と相成候御會御一同樣も定めし御元氣の事と嬉しく存じ候天父の御愛により當會も會員一同熱心に日曜學校其他種々なる事に活動致し居り候。私共いろ〳〵の事を致す中で神樣の爲になす働ほど悅こび幸を得るものなく、一日〳〵每に勇氣と希望に滿たされて働き居り候今度は愛する三人の姉妹當會を出でられて他方に赴かれ候へ共尙十三人を加へられ益々盛大に向ひつゝあり候まゝ御喜こび下され度候、每月最初の日曜日の夜特別の集まりを開き其他每夜種々の小集會を開き居り候。（宇都宮青年會報）

◎共立女子青年會　私共小さき會に候へ共神の爲に働く一人〳〵たる事を忘れず勵み互に助け合ひ居り候當會各部委員の下にはそれ〴〵顧問の先生ありて其下に皆一心に働き居り候左に新役員の名を御知らせ致し候。

會長　小山千慈　副會長　原田ひさ子
書記　伊藤恒子　會計　武笠光子
傳道部長　篠原けい　書記　添田もと　會計　工藤とよ
文學部長　宇田川いね　書記　兒玉あい　會計　草柳あい
新[illegible]矯風部長　河村こう　書記　須藤うめ　會計　石川政枝
社交部長　荻野きみ　書記　江原みち　會計　小澤春江
音樂部長　岡野としえ　書記　成田まさ　會計　加納美津井

◎宮城女學校青年會　堤の柳も綠滴る許りに相成候、折柄皆々樣には益々御壯健にて神の御國の爲御勉め遊ばさる事と喜こび居り候、私共も打ち揃ひ恙なく神の豊なる御恵のもとに暮し居り候間御安心下され度候、扨我が青年會も今度新たに左の十九名の役員を與へられ益々會の爲めに發展を計らんと致し居り候間何卒諸先生方御敎導被下され度候。

會長　宗像千代　副會長　菅井りう
會計長　池文　木村とくゑ

記錄書記 吉川やよゑ　通信書記 本野千代
誘導委員 柿田はま子 今澤きく 代々木すゑの
慈善委員 小野さだよ 鳴原とみ
運動委員 三浦 榮 村松ふみ 鈴木みゆき
集會委員 山浦 仁 成田 榮
販賣部委員 田中 八重 黑見 みな 杉山 すて

◎米國羅府日本女子青年會　北米加州羅府日本女子青年會幹事大谷ろく子姉より三月廿八日附通信左の如し。

當會は去る二月役員が新たになりまして又元氣がつきました。會長長谷川たよ子、副會長山崎牧師夫人及井芹ドクター夫人、書記竹川夫人及狩野夫人、會計田中ドクター夫人及福島夫人で其他評議員の方々も大變元氣を以て御助け下さいます。先般は少々悲觀も免れ得ませんでしたが此頃は再び會に元氣づき一同共力して一生懸命努めて居ります。此週及び來週はワシントン政府より送られた小兒取扱ひに就ての幻燈を寫して日本婦人を助けんとして居り升。生憎ミス、タビングは桑港へ御出でになる時なので少々不自由で御座いますが兎に角皆樣の御援助により出來得る限りを致さうとして居ります。田舍の方々へも持參して御みせする心算です又本月の半頃から橋立姉を當會の看護婦として雇ふ事になつて居ります、同姉はエンジエルス病院を卒業せられ社會事業を望むで居られます。河井先生は何時頃御歸朝遊ばしますか、御歸りの時羅府にもう一度御寄り下さいませんでせうか、若し叶へば小さい修養會でも日本婦人同志で開きたいと存じます、又評議員丈の夏期修養會でも餘程有益であると思ひます。是非置き土產にもう一度當地に先生の御寄り下さる事を祈つて居ります。

◎米國聖書會社創立壹百年紀念會　五月六日午後七時より神田青年會館にて記念演説會を開けり米國大使ガスリー氏の司會にてラールネデ、内村鑑三、山室軍平、元田作之進諸氏の演説あり、非常の盛會なりし。

○鹽見縫子姉　在英中に在米河井總幹事へ手紙を寄せられしが目下英國より渡米し紐育市にて勉學中なり、今其の手紙の一節を記すべし、「昨日日本女子青年界十月號を拜見致し河井先生が此冬を紐育にて御過し遊ばさるやう伺ひ申候、實は私事此度一二ヶ年紐育にて幼稚園事業を研究致す事と相成り十二月八日英國を出帆セントルイズ號にて渡米致し候樣決定致し申候、紐育には誰も知人御座なく甚だ心細く思ひ居候折柄先生の御出でを承り誠に〱嬉しく存じ申候、何れ最初は青年會寄宿舍にて御厄介に相成度く思ひ居り候、御多忙にいらせられ候御事とは存じ候へ共又何かと御配慮に預る事と存じ候。これまでにも女子青年界拜見致し候度に何とか御便致し度存じ居り候ひしも筆を採れば自然に悲しき過去の身の上話に筆走り失禮と存じては認めたるまゝ打ち捨て候事度々御座候、先生方には御記憶下され候や否やと存じ候へ共私は數年前廣島女學校に居候市川縫と申す者、其後緣ありて名古屋の青年會及敎會、學校等の手傳を致し居り候鹽見と申す者と結婚致し候處四ヶ月後に寡婦と相成り丁度其頃郵船會社支店長伊東御家族渡英致され私も御伴して參り候、不肖乍ら三年間お勤め申候間此度お暇を頂き暫く勉强致し二三年後には日本へ歸り當分廣島女學校にて働く都合に相成り申候、當地滯在中は常に近所の女子青年會に參り少なからず慰められ申候。

△ミスカフマン　東京女子青年會幹事なる同姉は五月二十五日横濱出帆歸國の途につかる來春再來朝さるべし。

△葛山きよ　女子英學塾卒業後岡山縣高梁順正女學校へ赴任。

△陶山よね　岡山縣津山町津山高等女學校へ赴任。

△石渡せつ　水戸上市高等女學校へ赴任。

△安東廉子　大阪なる同姉は先月上旬本部を訪問さる。

△湯田キミノ　永らく本部の爲働かれしが本月初旬歸鄕。

△井上チトセ　丸龜高等女學校に奉職されしが此程歸京本部事務を助けらる。

△上野梅香子　上田梅花幼稚園なる同姉は去月下旬上京。

△村松環子　四月二十日仙臺市にて死去せらる。本會は同姉に對し謹みて追悼の意を表す。

支部及會員諸姉へ

豫て御願申上置候へ共各支部の事業集會其他狀況等續々御通信成し下され度候

會員諸姉の論文、感想、和歌、俳句等何にても御投稿を希望仕候

會員諸姉の消息住所の異動等も出來得る限りは誌上に掲げ度存候間御通知下され候樣希望仕候

編輯〆切は毎月二十日に御坐候間其の御含にて御投稿又は御通信下され度候

日本基督教女子青年會本部内

女子青年界編輯部

○會友申込（本部報告）

通常　馬場　篤子

○會友會費領收（本部報告）

金壹圓也
四宮　ミキ（大正五ノ四―六ノ三）　原田こちち（大正五ヽ四―六ノ三）
青山　英子（大正五ノ四―六ノ三）　多賀　艶　大正五ノ四―六ノ三）
馬場　篤子（大正五ノ五―六ノ四）　井上　淨子（大正四ノ三―五ノ二）
伊藤　直子（大正五ノ四―六ノ三）
山梨英和女學校（大正五ノ二―六ノ一）
金貳圓也
布施とよせ（大正五ノ二―六ノ一）　佐藤　勝子（大正四ノ五―六ノ四）
阪本　花代（大正五ノ三―六ノ二）

○雜誌「女子青年界」代金領收

金七拾錢也
宮前右太郎（大正四ノ三―五ノ二）　福原　なみ（大正五ノ四―六ノ三）
德江源之助（大正四ノ三―五ノ二）　手塚　保子（大正五ノ二―六ノ一）
石澤　ケン（大正五ノ十一―六ノ十）　京都同志社（大正五ノ四―六ノ三）
スマイザー（大正五ノ五―六ノ四）　安孫子久江（大正五ノ一―十　二）
鹿股　ふみ（大正五ノ六―六ノ五）　越野　とよ（大正四ノ十―五ノ九）
佐藤　はる（大正五ノ八―六ノ七）　小泉　文子（大正四ノ十三―五ノ十二）
和田ましえ（大正五ノ十―六ノ九）　和田　畏子（大正五ノ二―六ノ一）
石田むらえ（大正五ノ十―六ノ九）　莊原　秀子（大正五ノ一―十　二）
阿部　つや（大正四ノ十二―五ノ十一）
梅花幼稚園青年會（大正五ノ五―六ノ四）
金五圓也　山中せん子（大正三ノ四―六ノ五）
金貳圓八拾錢也　共立女學校（大正五ノ四月號四十部代）
金拾四錢也　阪本花代（大正五ノ五―11二部代）
金壹圓貳拾錢也　志立やな（大正五ノ四―六ノ三）
金五拾四圓八拾六錢也　サクラメント女子青年會
（大正四、五―五ノ三、五百四十部代）
金七拾壹錢也　金子モト（大正五ノ一―十二）
金參拾五錢也　木谷よし子（大正四ノ十一―五ノ四）
金壹圓四十錢也　吉安まさ（大正四ノ六―六ノ五）
金四圓貳拾錢也　青山女學院（大正四ノ九―五ノ三六十部代）
金八拾錢也　太田宮子（大正五ノ六―六ノ五）
金貳圓拾錢也　ウイルミナ女學校（大正五ノ二―六ノ一）

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税共	內地	海外
一部	金八錢	金拾壹錢
一年前金	八拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金參拾錢
四分一頁	金二圓
半頁	三圓五拾錢
全頁	金六圓

年極又ハ回数により割引有

大正五年五月廿八日印刷納本
大正五年六月一日發行
發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會
發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子
印刷人　芝區櫻田和泉町七番地　前川吉次郎
印刷所　芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

NATIONAL COMMITTEE

Headquarters: **14 Kitajimbocho, Kanda, Tokyo.**

Telephones: Residence, Bancho 4563; Office, Honkyoku 598.

Cable and telegraph address, Emissarius, Tokyo.

Furikae chokin, Tokyo 23723.

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inoue, Treasurer
Miss Michi Kawai, Active Member World's Committee
Miss Ume Tsuda
Miss A. B. West
Miss Uta Suzuki
Miss Kita Hasegawa
Miss Sarah Ellis
Miss Chiyo Yamada
Mrs. E. W. Clement
Miss Ai Hoshino
Miss Jun Kido
Miss Matsu Okonogi
Mrs. Taki Shidachi

NON-RESIDENT MEMBERS

Madame Asa Hirooka, Osaka
Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss M. F. Denton, Kyoto
Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Miss K. Tristram, Osaka
Miss Susan Searle, Kobe

SECRETARIES

Miss Michi Kawai, National
Miss Margaret Matthew, National
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Mary Page, General, Tokyo
Miss Taka Kato, General, Tokyo
Miss Emma Kaufman, Associate, Tokyo
Miss Mary Baker, General, Yokohama

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XIII | JUNE, 1916 | NUMBER 6

The regular meeting of the National Committee was held May 13, at which the following officers were elected: Chairman, Mrs. Hana Ibuka; vice-chairman, Mrs. Kei Okami; secretary, Miss Tami Mitani; treasurer, Dr. Tomo Inouye. A Student Committee was also appointed, which should make a study of student work, plan for better co-ordination of work among the local Associations, and for new undertakings in the interests of students. This committee consists of Mrs. G. M. Fisher, chairman; Miss Ume Tsuda, Miss Matsu Okonogi, Miss Tami Mitani, Miss Ruth Emerson. A new Association, Yokohama Eiwa Jo Gakko, was affiliated with the National Committee. The Summer Conference Committee reported tentative plans for this year's conference, which will be held at Ferris Jo Gakko, Yokohama, from Friday evening, July 21 to Saturday morning, July 29. Among the speakers and Bible class leaders are Madame Asa Hirooka, Rev. Judo Imai, Rev. Hoshino, Colonel Yamamuro, Rev. Uemura, Miss Jun Kido, Mr. Tonomura, Mr. Demura, Mr. Inagaki. Miss Kita Hasegawa is leader of the conference.

The annual meeting of the Tokyo City Association was held Saturday afternoon, May 20. Although the day was very stormy over one hundred fifty members and guests attended. Mr. Saburo Shimada was the speaker of the afternoon. Three new members were elected on the Tokyo Committee: Mrs. Taki Shidachi, Mrs. Taketomo and Mrs. Sumi Oi.

On April 29 the Executive Committees of eight of the nine student Associations of Yokohama, Kanagawa and Tokyo met at the Tokyo Association building for a "Cabinet Conference." The chairmen of a certain committee in each Association met for a discussion of the work of their committee, as did all the other chairmen, while the presidents had a general discussion of the work of the whole Association. Miss Kita Hasegawa led a Bible study hour, which closed the morning's work. After lunch which the girls had brought with them, Mrs. Ibuka, chairman of the National Committee, told of the work of the World's Association and of the National Committee. This meeting was followed by a general executive committee session, led by Miss Kato, general secretary of the Tokyo Association. The remainder of the afternoon was given to games and a social time in the gymnasium of the Association building. After an early supper Colonel Yamamuro addressed the conference on "Christian Activity" as shown by the first chapter of Acts. Fifty-eight girls came together in this one-day conference in the beginning of their year's work as officers and chairmen in their Associations, and not only learned some new ways of working but gained a new feeling of esprit de corps in their contact with other schools and with the National Committee itself, several members of which assisted in the conference.

Miss Emma Kaufman, associate secretary of the Tokyo Association, returned to Canada on May 25. She expects to attend the Canadian Young Women's Christian Association Summer Conference the last week of June, and after the summer at home she will attend the National Training School in New York for the first term, returning to Japan in March, 1917.

The subscription price of the magazine, "Joshi Seinen Kai," will be raised to eighty sen per year beginning with the July number. This applies to new subscriptions or those renewed after this number, not to those already paid.

日本基督教女子青年會

目的

日本全國の諸學校及び市邑に於ける青年女子の間に基督教女子青年會を設立し其一致聯合を圖り以て萬國基督教女子青年會と連絡する事左の事項を奬勵す

青年女子の間に基督教的智識を普及し之を導き基督耶蘇を救主として信奉せしむる事

青年女子の靈的生命を涵養し献身的行爲を勵し其智識社交身體の發達を圖る事

青年女子をして萬國に基督の王國を擴張せしむる事

會友

基督教女子青年會未設の地或は學校に於て本會の主旨を賛助し事業を奬勵せんと欲する者を以て本會の會友とす

會友の種類及會費は左の如し

通常　年　金壹圓　維持　年　金貳圓以上

會友には本會機關雜誌「女子青年界」を送附す

會友たらんと欲する者は本會本部に申出べし

事業一班

巡廻訪問　本會幹事を派遣して支部を奬勵し或は地方を巡廻視察し本會の發展を圖る

出張講演　廣く一般女子の需に應じて講師を派遣す

機關雜誌　月刊「女子青年界」を發行し靈性智識の資に供す

紹介部　一般女子のため諸般の紹介をなす

寄宿舍　東京市内に青年女子の爲監督寄宿舍を設く將來他の都市にも設立せん事を期す

宿泊所　外國婦人の要求に應じ併て日本の眞相を紹介す

夏季修養會　毎年夏季山水明媚の勝地に開會し專ら女子の修養を圖る

旅行者の友　地方より上京する婦女子の保護を要する者の救濟保護に任ず

社會部　所屬幼稚園有り主として下級社會の幼兒を收容し且其家庭の傳道啓導につとむ

中央委員

委員長　井深花子

副委員長　岡見惠子

記録書記　三谷民子

會計　井上友子

萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子

委員

津田梅子（東京）

エ、ピ、ウエスト（東京）

鈴木歌子（東京）

小此木松子（東京）

長谷川喜多子（東京）

星野愛子（東京）

サラ、エリス（東京）

イ、クレメント（東京）

山田千代子（横濱）

藤田貞子（横濱）

城戸順子（横濱）

廣岡淺子（大阪）

ケー、トリストラム（大阪）

エム、エフ、デントン（京都）

佐伯小糸（京都）

松田道子（京都）

エス、ソール（神戸）

上代淑子（岡山）

役員

總幹事（本部）　河井道子

同（同）　エム、エル、マシウ

書記（同）　アール、レーガン

總幹事（東京）　エム、ペーヂ

同（同）　加藤高子

特志幹事（同）　イー、アル、カウフマン

幹事（横濱）　エム、ベーカー

事務員（本部）

事務員（東京）

事務員（横濱）

旅行者の友係

幼稚園主任保姆

幼稚園助手

第一寄宿舍監

第二寄宿舍監

第三寄宿舍監

宿泊所取締

松宮のぶ子　湯田きみの　小篠端子　鈴木貞子　林ふさ　松崎滿喜　世良田勇子　古谷たまき　門倉ふじ　大西絹子　有田玉子　ミス、ダルトン

東京市神田區北神保町十四番地

日本基督教女子青年會本部

女子青年界第拾參卷第六號

大正五年五月廿八日印刷納本　大正五年六月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可